

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・ボーナスが出た企業が多いことから、今後については良くなる。また、旅行に出かける機会も増えることもプラス要因となる。
		商店街（代表者）	・地域の最大イベントが8月に開催されるため、来街者及び販売量の増加が見込まれる。特に、近年は夏のイベント時に、中国や台湾などからの外国人観光客が目立って増加傾向にあるため、駅周辺のホテルやホテル関連業種の業績アップも期待できる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・観光客の数は少なくなっているものの、報道の影響もあるのか、観光客1人1人の表情が明るくなっている。政治に頼っても仕方がないので、今のうちに遊ぼうという考え方の人が増えている。
		百貨店（売場主任）	・このところ、以前と比べて客の購買意欲が増してきているため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・客の買い方をみると、単なる安い商品ではなく、多少高くても話題性のある商品や付加価値の高い商品を購入する動きがみられることから、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・市内の商況は今月に入り、全体として上向いてきている。気温が予想以上に上昇していることもプラス要因になっている。今後3か月の長期予報でも高温との予想が出ているので、夏物衣料にとっては追い風になる。
		スーパー（企画担当）	・参議院選挙の行方でも多少左右されるが、消費税の増税問題を政党がそに乗せるなど、日本の将来をきちんと見据える議論がなされ始めていることから、国民の将来像がやや明確になり、その安心感からマインド的には財布のひもが緩む。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度に伴う需要が年末まで続くと思込まれるため、今後については良くなるのが期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・まだ問い合わせの段階ではあるが、会議等の団体利用であるMICE需要がうかがえることから、今後の景気の回復が見込まれる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・北海道に涼しさを求めて訪れる道外からの観光客が増えていることから、今後についてはやや良くなる。ただし、先日の長期予報で暑い北海道のイメージが出てくることで、北海道を敬遠されることが懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・東京方面への旅行需要の続伸により、前々年並みの水準に回復することが期待される。一方、団体旅行は、前年比80%となっており、復調の兆しが不透明である。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注額を前年比でみると、7月は国内旅行が前年比110%、海外旅行が同108%、8月は国内旅行が前年比85%、海外旅行が同104%となっている。国内旅行はやや弱みだが、海外旅行が好調のため、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・競馬場が改築してリニューアルオープンしたことで、観光客の入込が多くなっている。また、箱館奉行所も7月にオープンする予定であることから、今後、観光客が増えることが期待できる。
		観光名所（職員）	・中国人の観光ビザ要件緩和に加えて、国内の景気向上等により、観光客が増加傾向に向かう。ただし、国内観光客の動きはまだ鈍い。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・高速道路の一部無料化により、車両航送が増加する。
変わらない		商店街（代表者）	・商店街の来街者が一段と減っており、今年に入って閉店する店が増えていることから、今後も厳しいまま変わらない。
		商店街（代表者）	・家計が改善された兆しは見えず、今の状態がトレンドとして続くものの、賢く生活する工夫により、消費者が心理的にゆとりを持ってようになってきた様子がみられる。
		商店街（代表者）	・残暑が続くか続かないかにもよるが、単価の高い秋物商材が売れ始めれば、売上が増えることになるものの、金額の高い買物に対する客の購買意欲がそれほど増すとは思えないため、今の状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・最近の売上推移をみると、月単位ではなく、1週間単位や10日単位でベクトルが変わっており、景気が右往左往している状況にあるため、今後も変わらないまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・6月に引き続き、7～8月も冷夏と言われていたが、逆に高温が続くという長期予報が出たため、夏物の購買がそこそこの数字として見込める。特にカットソー・ブラウス・パンツ等の動きが顕著となる。8月下旬からは秋物商戦に入るが、この時期の天候によっては更に期待が持てる。
		百貨店（売場主任）	・前年の売上を上回った部門もあるが、婦人服、呉服、宝飾は前年割れの状況が続いている。
		スーパー（店長）	・このまま好天が続き、気温の高い日が続けば、飲料やビールの売上も伸び、夏商戦への期待が持てるが、現在の不景気感を払しょくするまでの状況は見込めない。
		スーパー（企画担当）	・ここにきて気温の上昇がみられ、涼味商材の動きが活発になり、売上も上向きつつあるものの、冷夏予想が出ているため、今夏の商戦は天候に左右される見通しの立ちにくいものとなる。
		スーパー（役員）	・7月以降、前年よりも気温が上がれば、夏物商材の買上点数の増加が期待できるが、8月の気温は平年以下との予測もあることから、現状維持の状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・6月に真夏並みの暑さが続いたことで、来客数が増加し、売上が増えている。天候要因で一時的なものという見方もあるかもしれないが、消費者の支出に少し安定したものを感じることから、今後も変わらないまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・今月の動きは天候要因による回復の動きであり、天候次第で変動が見込まれる。高速道路の一部無料化等の効果に期待したいが、依然として客単価の伸び悩みがみられることから、まだ本格的な回復とはならない。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこや酒の販売量が増加しておらず、依然として節約志向が強いことから、前年並みの天候では、売上増加は見込めない。
		衣料品専門店（店長）	・3か月後にはもう寒くなり始め、暖房などにお金が必要となるため、消費にあまりお金が回ってこなくなる。
		家電量販店（店員）	・夏の天候によっては、白物家電が動くことが期待できる。
		家電量販店（地区統括部長）	・薄型テレビは、年末のエコポイント制度の終了まで好調に推移するが、パソコンを中心としたOA商品の落ち込みが予想されることから、全体としては、ほぼ横ばいの状態が続く。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・本当に必要な商品だけを購入する客の傾向は今後も変わらず、ジグザグに売上が変化する状況が今後も続く。
		旅行代理店（従業員）	・7月の連休や9月の連休でのキャンセル待ちが少なく、夏休みやお盆時期も割引率の大きな航空券に需要が集まっている。
		タクシー運転手	・当市のタクシーは減車で台数が減ってきているが、それよりも利用客の減少幅が大きいいため、今後もタクシー利用が前年を下回って推移する。
		通信会社（社員）	・地上デジタル放送対応テレビの購入が進んでいるなかで、大きなイベントやキャンペーンもないことから、商品の購入意欲が刺激されることはない。
		観光名所（役員）	・海外客、特にアジアからの来客が回復してきている。一方、国内客については上向く兆しがあるものの、参議院選挙などのマイナス材料もあり、先行きの不透明な状況が今後も続く。
		美容室（経営者）	・何か大きな経済刺激策でも発表されない限り、現状の冷えた消費傾向は変わらない。家計の支出がはっきりと固定化されており、不要不急のものに出費しないという雰囲気は顕著にみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・多少販売戸数が増加しても、あまり喜べない。依然として販売価格の下落傾向が続いているが、建築コストの低下がそれに追いついておらず、今の傾向が続く限り、企業が存続するために必要な利益を確保することは難しい。
	やや悪くなる	スーパー（店長）	・競合店の閉店から1年が経過し、今までのような売上の伸びは期待できなくなるため、今後の動向は不透明である。特に、食品部門は競合店が近くにオープンする予定のため、一層競争が激しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・まだ景気が上向いていない状態のなかで、環境対応車への補助金制度が終わるため、全体的な販売量が少なくなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の高値安定による消費の節約、若い世代の自動車離れ、ハイブリッド車の普及による燃費の向上により、自動車用燃料の販売量の減少傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン(スタッフ)	・景気はこれ以上悪くならないと密かに期待していたが、消費税の増税や北海道開発局の廃止などのニュースが流れたことで、北海道が停滞に陥る危険性がある。
		高級レストラン(スタッフ)	・今月はボーナス時期であったが、テレビ購入などにお金が回ったことで、今後、ぜいたくなレストラン利用などが控えられる。
		観光型ホテル(経営者)	・このところの円高により、海外客の減少が懸念される。更に、高速道路の一部無料化や景気低迷の影響などに伴う来客数の減少も懸念されるなど、政治的な外部要因にも大きく左右されている。
		タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	乗用車販売店(営業担当)	・環境対応車への補助金制度が9月に終了するが、商品の供給が間に合わないため、制度終了前の駆け込み需要が見込めない。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業(経営者)	・工事の発注が進み稼働が上がる。ただし、官民ともに量的な落ち込みが大きく、価格面でも過当競争のため、厳しい状況が続く。
		輸送業(支店長)	・季節要因になるが、例年、夏場は物流量が増えるため、今年も物流量が増えることが期待できる。
	変わらない	食料品製造業(団体役員)	・口蹄疫の収束感やサッカーワールドカップでの1次リーグ突破などの明るい話題はあるものの、参議院選挙や消費税の増税の議論などが景況感に水を差すことになる。
		家具製造業(経営者)	・経済環境、政権などに不確定要素が多いため、今後も変わらないまま推移する。
		出版・印刷・同関連産業(従業員)	・あまり良くなるような状況は考えられないため、今後についても変わらない。
		金属製品製造業(経営者)	・取引先の動きがまだ見えないため、今後についても変わらないまま推移する。
		金属製品製造業(役員)	・マンション及び住宅販売に関しては、少しずつ持ち直してきているが、販売価格の低迷や材料の高騰が起きているため、今後についても変わらないまま推移する。
		輸送業(営業担当)	・高速道路の一部無料化により、輸送業者の集配にどのような影響が出るか判断できない部分もあるが、これまでのようなジャストインタイムは困難になる。
		金融業(企画担当)	・観光関連は高速道路の一部無料化に加えて、外国人観光客の増加傾向から、持ち直しが見込まれる。住宅業界も住宅版エコポイント制度の効果から、リフォーム需要の好転が見込まれる。一方、公共投資削減の影響から、建設土木業界は大幅な落ち込みが続く。
		司法書士	・一時的には回復に向かうが、当分は不安定な状況が継続する。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	・業績の良い業種と悪い業種がはっきり分かれており、全体としてはプラスマイナスゼロでの推移となる。
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	・北海道地場の案件が少ない状況であり、先行きに不安がある。
	やや悪くなる	食料品製造業(役員)	・4～6月と例年、販売が好調なこの時期に低迷しているため、販売量が落ち込む夏場は更に悪くなる。
		建設業(従業員)	・冬に向かい始めるなかでの更なる新規着工件数の減少に加えて、建設工事の価格低下から、建設関連での景気浮揚は全く望めない。
		通信業(営業担当)	・当社及び取引先で、上期業績について計画値よりも慎重な意見が増えているため、今後の景況感はやや悪くなる。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	・公共事業の発注量の減少が見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	-	-
	雇用 関連	良くなる	-
やや良くなる		求人情報誌製作会社(編集者)	・当初の冷夏予想に反し、高い気温が続いている。このまま冷夏予想が外れれば、季節商材や観光に良い影響を与えることになり、雇用面にもつながることが期待される。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・天気が思わしくなかった5月の反動からか、好天続きとなった6月は小売業や食品関連業種で求人が大きく増加し始めていることから、7月以降も個人消費関連業種が好転することになる。
新聞社[求人広告](担当者)	・ここ数か月のすう勢から、地域の雇用環境が改善されてきているため、今後についてはやや良くなる。また、雇用環境の改善が、全般的な消費拡大に波及することも期待できる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気回復とも運動する新卒採用の動向ではあるが、徹底して質を重視する方向性が顕著に示されるなか、情報交流の場で買い手市場を有効に活かそうという話題が少なくない。次年度の採用は、現時点で未確定であるが、今後、前年並みの採用数、もしくはわずかでも採用数を増やすという情報が出てくるのが期待できる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・求人数は横ばいで推移すると見込まれるが、なかなか就職できない求職者は増加傾向で推移しており、失業率が上昇する。行政が様々な雇用対策を行っているが、すぐに成果が出ることは難しく、しばらくは雇用環境の悪化が続く。
		人材派遣会社（社員）	・増員に伴う雇用の話は、相変わらず増えていない。すぐに雇用が増えるとは思えないため、今後についても変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今年3月から求人件数に少しの回復傾向があったものの、今月は求人数の伸びが鈍化しており、一服感が出ていることから、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求職申込件数が2か月ぶりに前年を上回ったものの、前年を0.8%上回るにとどまったことから、今後についても変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・製造業の求人が減少傾向にあり、求人全体の数字にも伸びがないことから、今後も今の状況が続く。
		職業安定所（職員）	・引き続き就職件数が前年を3.6%上回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・世界的な景気刺激策の息切れ、財政再建策の実施、中国のバブル崩壊、欧州の財政危機等が言われ始めていることから、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	-	-

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・農作物の生育が順調であることから、需要が高まるのが期待される。
		百貨店（広報担当）	・夏のボーナスの微増や子ども手当の支給などのプラス要素が、今後消費につながる。
		百貨店（販促担当）	・価格施策や顧客ニーズに合わせた提案と催事を開催しているため、来客数の回復傾向がしばらく続く。
		コンビニ（店長）	・低価格商品の品ぞろえを強化しているため、客単価は低迷しているが、来客数は前年並みをクリアしている。子ども手当による効果が出てきており、今後、消費は回復に向かう。
		衣料品専門店（店長）	・徐々に来店する客が増加するなど、スーツのマーケットが動き始めており、今後は、天候にも左右されるが、長期間続いていた売上不振からの脱却が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・高単価商品が動き出したことに加え、買上点数も回復傾向にあり、確実に2年前の水準まで戻りつつあることから、今後の見通しは明るい。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・参議院選挙の影響により、飲食店の売上が一時的に落ち込むなどの不安材料はあるものの、今後は持ち直しが期待される。
		高級レストラン（支配人）	・客単価、来店回数共に持ち直しの動きがしばらく続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・駅前地区において、他社のゲストハウスと当ホテルのチャペルのオープンが重なることから、今後、競争激化は避けられないものの、相乗効果が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・他の業界や雇用環境は依然として低調なものの、当業界は回復傾向にあるため、今後の商戦に期待できる。
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・今後、大々的なキャンペーンを実施するため、来客数の増加が期待される。	
	変わらない	商店街（代表者）	・客の様子から、景気の底から脱したという安心感がでてきており、今後失業率が4%台まで低下すれば、消費は上向きに転じる。
		商店街（代表者）	・子ども手当が支給されても、貯蓄にまわる可能性が高いことから、小売店への効果はあまり期待できない。
商店街（代表者）		・景気が上向き要因が見当たらない。	
一般小売店〔医薬品〕（経営者）		・参議院選挙後は、しばらく不安定な状況が続くことから、景気回復の見通しはたたない。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・参議院選挙はあるものの、当面は消費者の動向が変化する要因はみあたらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・消費者の節約志向は続いており、急速な景気回復は期待できない。
		百貨店（経営者）	・やや高額な商品の動きが良くなってきているものの、依然として客単価が低下しており、この傾向は今後しばらく続く。
		百貨店（経営者）	・自治体発行のプレミアム付き商品券が、前年の景気を押し上げたものの、景気が今後変化する要因はない。
		スーパー（経営者）	・競争激化により、今後も客単価の回復は期待できない。
		スーパー（店長）	・子ども手当が支給されるが、客の財布のひもは固く、消費回復は期待できない。
		スーパー（店長）	・低価格の均一セールは好調だが、まとめ買いをする客が多く、セール以外の日の売上が落ち込んでいる。他社との価格競争も激化しており、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・賞与や有効求人倍率が若干改善傾向にあるものの、欧州の経済不安や、円高、株安は景気回復に悪影響を与えており、今後も消費回復は期待できない。
		スーパー（営業担当）	・食料品の買い回りは続くため、売上の回復は当分期待できない。
		コンビニ（経営者）	・来客数の増加により、売上は前年並みまで回復しているものの、客単価はここ5年間で最低の水準にある。買上点数は横ばいなので、客単価が落ち着かないかぎり、今後明るさはみられない。
		コンビニ（経営者）	・20～40歳代の男性客の昼食代は300～400円が多く、懐具合の厳しい状況は今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・店舗経営者の話からは、客の生活防衛意識に変化がないため、回復に向かうにはしばらく時間がかかる。
		コンビニ（エリア担当）	・人口減少による需要の縮小と競争激化の傾向は続く。
		衣料品専門店（経営者）	・消費マインドは、徐々に回復するが、デフレ傾向はしばらく続くことから、単価上昇は期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・前年に比べて売上が減少しており、今後もこの状態が続く。
		衣料品専門店（店長）	・不景気で消費者は節約することに慣れており、消費回復まで至らない。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の先行き不安は今後も続くことから、消費回復は期待できない。
		家電量販店（店長）	・エコポイントによる先行買いが見られるものの、終了する年末まで厳しい状況は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金が終了する9月まで、現在の状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金の駆け込み需要が期待される。
		住関連専門店（経営者）	・耐久消費財の需要回復は期待できず、今後も厳しい状態がしばらく続く。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・客の所得は増加していないため、今後、景気が回復する要素は見当たらない。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・受注件数は増加傾向にあるものの、利益の大幅な改善は見込めない状況が続いており、景気回復には時間を要する。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・口蹄疫問題が終息して消費者の安心感が戻れば、購買意欲の向上に期待できるが、参議院選挙の期間は消費を控える動きも予想される。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・在庫不足の状況が続くなか、海外の縫製工場の閉鎖によりコストが大幅に上昇しており、非常に厳しい状況が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・参議院選挙に伴い、新たな景気対策はしばらく期待できないため、本格的な景気回復は冬の需要期までずれ込む。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・週末の販売単価が不安定な状況にあるものの、売上は現状のまま推移する。
		高級レストラン（経営者）	・個人消費は、今後高い確率で改善が見込まれる一方で、法人需要は、更なるリストラや事業縮小を実施する企業がでてきており、期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・政権交代が行われたものの、予約状況から判断して、景気が回復する材料はあまり見当たらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・参議院選挙の結果がどのように景気に影響するのか、先行きは不透明な状況にある。
		一般レストラン（支配人）	・低温長雨の長期予報から、主力製品のビールを含めて売上が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
企業 動向 関連		スナック（経営者）	・夏のボーナス支給により一時的な売上増加はみられるが、今後しばらくは低迷が続く。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・旅行マインドは多少向上してきているものの、デフレの影響から、客は単価を優先する傾向がみられ、今後もこの状況が続く。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約の状況から、今後も厳しい状況が続く。	
		旅行代理店（店長）	・今後の予約状況は厳しく、販売量の回復は期待できない。	
		通信会社（営業担当）	・参議院選挙を控え、景気改善が見込めない。	
		通信会社（営業担当）	・景気は底入れしているが、手ごたえは感じられず、今後も厳しい状況が継続する。	
		観光名所（職員）	・予約数は、ここしばらく前年比数%減で推移しているが、更なる減少の要因も見当たらないため、今後もこの状態が続く。	
		遊園地（経営者）	・夏の賞与や子ども手当の支給により、今後消費が上向くか否かは不透明な状況にある。	
		美容室（経営者）	・来客数及び客単価の低迷は、今後もしばらく続く。	
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・ボーナス商戦も期待できず、消費者の購買意欲は低迷したまま推移する。	
	設計事務所（経営者）	・新規の受注が低迷しており、現在の状況はしばらく変わらない。		
	住宅販売会社（従業員）	・住宅受注残は、底をついてきているものの、一般物件の受注は1年先まで入っており、売上は横ばいで推移する。		
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・参議院選挙終了までは、飲食店を中心に動きが鈍くなり、売上はやや落ち込む。	
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・政治不安や、企業収益の悪化に伴う雇用不安により、消費マインドの回復する兆しが見受けられない。	
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・消費税は引上げの議論をするだけでも、個人消費を冷え込ませる懸念があるため、景気回復は期待できない。	
		スーパー（経営者）	・前年に比べ、夏のボーナスを大幅に減額、もしくは支給しない企業が増加していることから、客の購買力の低下傾向は今後も続く。	
		スーパー（店長）	・2次商圏内に競合店が2店舗オープンすることから、業績への影響は避けられず、今後は厳しさを増す。	
		スーパー（店長）	・近隣の店舗が改装オープンするため、当店への影響が懸念される。	
		スーパー（店長）	・天候不順により果物など農作物の生育が遅れており、冷夏が予想されることから、景気の更なる悪化が懸念される。	
		コンビニ（経営者）	・再就職が困難な状況が続く、求人数の増加が懸念されることから、今後も来客者数の減少傾向は続く。	
		コンビニ（エリア担当）	・高速道路無料実験開始による影響で、特に幹線道路の店舗では来客者の減少が懸念される。	
		乗用車販売店（経営者）	・客の先行き不安が根強く、現在の受注状況から、市場縮小が懸念される。	
		乗用車販売店（従業員）	・自治体や国からのエコカー購入補助金の終了により、売上の減少が懸念される。	
		住関連専門店（経営者）	・客の購買意欲の低下に伴い、新築住宅の減少が予想され、新規需要が減少する。	
		一般レストラン（経営者）	・これまで比較的安定していたランチの売上が大幅に落ち込み、景気はここ20年で最悪の状況にある。今後も厳しさを増す。	
		観光型旅館（スタッフ）	・高速道路無料実験開始により、個人客の増加が見込まれるものの、団体客の回復には時間がかかる。	
		都市型ホテル（経営者）	・例年より予約率が低下しており、低下幅が拡大傾向にあることから、今後も厳しさを増す。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年は大河ドラマ効果や国体の開催により宿泊部門は高い稼働率となったが、現在の予約状況から、今後は大幅な落ち込みが懸念される。	
		悪くなる	観光型旅館（経営者）	・県内及び東北からの予約数が大幅に減少しており、今後も厳しい状況が続く。
			タクシー運転手	・乗客から、新築物件の空室率が高いという話が聞こえてきており、今後も景気が良くなる要素は見当たらない。
	企業 動向 関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	輸送業（経営者）	・業種によるパラつきがあるものの、今後は物流の増加が期待できる。一方で、軽油価格の変動が激しく、先行き不透明な要素もある。
金融業（広報担当）			・取引先へのヒアリングでは、生産面での回復の動きが強まっており、今後、雇用等への波及が期待できる。	
	広告業協会（役員）	・大手広告会社の売上が増加しており、地元広告会社もテレビ広告を中心に多少回復の兆しが見えている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	金属工業協同組合（職員）	・受注単価は依然として厳しいものの、半導体関連の受注量が増えており、しばらくは現在の状況で推移する。
		農林水産業（従業者）	・春の天候不順により桃の生育が遅れ、販売時期がお盆時期にずれ込む予定となっており、注文数の減少や単価の低下が懸念される。
		食料品製造業（経営者）	・原料価格は高止まりしているが、これ以上の上昇は考えられず、景気悪化の材料は見当たらない。今後、アメリカ産牛肉の輸入規制緩和が実施されれば、原材料価格の低下も期待できる。
		食料品製造業（総務担当）	・景気が回復するような要因が見当たらない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・景気回復のための好材料が見当たらない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・サッカーワールドカップで社会的に明るい話題から、家電やスポーツ用品等の需要で景気が上向いて推移しているものの、イベントの終了でふたたび財布のひもが固くなる懸念がある。また、参議院選挙も盛り上がり欠け、景気回復のプラス要因にはならない。
		建設業（経営者）	・当面は新築工事の受注は低迷し、リフォーム工事が中心となる。
		建設業（企画担当）	・工事件数は、現在の状況が続く。
		金融業（営業担当）	・景気が回復する要因が見当たらない。
		広告代理店（経営者）	・テレビスポットの広告受注は、最悪だった前年との比較では増加傾向にあるものの、厳しい状況は今後も続く。
		広告代理店（経営者）	・参議院選挙の関係で多少の動きはあるものの、厳しい状況からの脱却は期待できない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・取引先企業では、売上低迷により厳しい経営を強いられているところが多く、個人客からも家計支出を抑制しているという声が聞こえてくることから、景気が上向くには、相当の期間を要する。
		公認会計士	・受注が前年を上回っている取引先企業はないことから、先行き不透明な状況が今後もしばらく続く。
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・低価格の飲食店が増加し、小売店の利益が圧縮され始めていることから、これまで以上に受発注が慎重になる。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅版エコポイントへの期待はあるが、新築に対するポイントが少ないことから、大きな効果は期待できない。	
	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・半導体関連企業のリストラが一段落したものの、当面、若者の雇用不安や所得減少など厳しい状況は変わらない。	
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・前年に比べ直売のさくらんぼの受注が減少しており、今後、厳しさを増す。
		食料品製造業（経営者）	・厳しい経済状況は当分変わらない。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・景気回復が見込めず、やむを得ず人員削減を始める会社も出てきており、今後更なる景気悪化が懸念される。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・急激な円高や、エコカー購入補助金終了の反動による受注減少が懸念される。
司法書士		・債務整理案件では過払いの件数が減少しているものの、仕事が見つからないなどの理由から自己破産申立の件数が増加しており、この傾向はしばらく続く。	
悪くなる			
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・新卒採用の問い合わせが増加傾向にあるため、景気回復が期待される。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・引き続き求人数の増加が予想され、個人所得の増加とともに景気の回復が期待される。
		人材派遣会社（社員）	・新規の求人募集を検討している企業が増えており、景気回復が期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・自動車関連の組立工場の本格稼働に伴い、求人数の増加が期待できる。
	職業安定所（職員）	・前年に比べ、新規求人数の減少割合が縮小傾向にあり、増加となる月も出てきていることから、今後雇用情勢は上向く。	
	職業安定所（職員）	・求人数の増加と求職者数の減少の動きが続いており、就業者数の増加につながることを期待される。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法が改正されても、直接雇用への移行は期待できない。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		・多くの業種では、業績の見通しが立たず、採用計画を据え置かざるを得ない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・自動車関連企業が生産設備を増強しているため、若干の雇用改善は期待できるものの、効果が現れるのはまだ先である。
		職業安定所(職員)	・求人数が前年に比べ増加しているが、増加率が低い状況は今後も続く。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は、前年に比べ2か月連続の減少、有効求人数も減少傾向が続いている。さらに有効求人倍率も低下傾向が続いており、今後は予断を許さない状況となっている。
		職業安定所(職員)	・新規求人の募集などは、当面、弱い動きが続く。
		職業安定所(職員)	・新規求人は4か月連続で前年を上回っているものの、有効求人倍率は、当面、厳しい状況は続く。また、雇用調整を実施する事業所の休業日数は減少傾向にあるものの、雇用調整助成金を利用する事業者数の増加傾向は続く。
		職業安定所(職員)	・業種によっては好調な業種があるものの、全体的に景気回復の兆しはみえない。
		職業安定所(職員)	・求人数、求職数共に前年並みに改善しており、雇用悪化の傾向は弱まっている。
やや悪くなる		人材派遣会社(社員)	・労働者派遣法の改正に伴い、派遣業界のマーケットは縮小傾向が続く。
		アウトソーシング企業 (社員)	・公共事業が減少傾向にあることから、雇用情勢は今後も悪化する見通しとなっている。
悪くなる		人材派遣会社(社員)	・大規模事務センターへの就労打ち切りが続くため、雇用状況は悪化する。

3. 北関東(地域別調査機関:(株)日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	テーマパーク(職員)	・新規投資した展示物の反響が予想をはるかに上回っている。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕 (経営者)	・客の消費意欲が少しずつ好転している。
		百貨店(営業担当)	・製造業の受注が持ち直してきており、前年に比べると夏のボーナスがプラス傾向になっているので、多少、消費の期待ができる。
		百貨店(営業担当)	・クリアランスセールや、ギフトセンターの開設で、多くの来客がある。ただし、参議院選挙等もあり、政府の施策によって景気は変わってくる。
		スーパー(経営企画担当)	・昨年より増える見込みである夏のボーナスに期待している。
		コンビニ(経営者)	・地元企業の残業の増加と梅雨明け後の温度上昇により、やや良くなる。
		コンビニ(経営者)	・競合店の閉店に伴い、これまでよりも7%程度の改善ができる。
		衣料品専門店(統括)	・異業種の方などから状況は非常に悪いという話をいろいろ聞いているので、祭り関連の製品を扱っている店も、今後最盛期に入るが、どうなるのかと心配していた。しかしこのところ、いくらか手応えが出てきている。
		一般レストラン(経営者)	・プレミアム付き商品券の有効期間も間近となり、また、子ども手当等による効果も始めているので、多少期待が持てる。
		スナック(経営者)	・多少、上向きの傾向が出てきているので、この調子でいって欲しい。
		旅行代理店(副支店長)	・海外旅行の需要が徐々に前年を上回ってきた。前年はインフルエンザ等で旅行を控える人が多かったので比較にはならないが、さらに前の08年度と比較しても、103%以上の状況になっているので、景気が上向いてきている。
		通信会社(経営者)	・同業者と顧客内に景気低迷の底を打った感が広がっている。広報の見積り依頼もそこそこ増えている状況から、2~3か月後には受注につながっていく。
		その他サービス〔立体 駐車場〕(従業員)	・先月は設立4周年記念のイベントをしたため増えたのかと思っていたが、今月も依然同じような状況が続いている。また、月ぎめなどの今後の契約状況についても順調な伸びを示しているし、客の様子からしても良くなる。
		変わらない	
商店街(代表者)	・近郊の工場に向いて話を聞いても、受注が少なく、工員が何もしないでじっとしているのが情けないと言っているの で、悪いままで変わらない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経営者)	・ボーナスシーズンの割に商品の動きは鈍い。猛暑を期待して季節商材の在庫を抱えたいところだが、先行きの不透明さから、消費者の買い控えに対抗するような強気な商売ができない。
		百貨店(総務担当)	・先月、当商圏で大手スーパーが閉店し、その分の売上が当店にプラスとなるかと期待していたが、あまり売上が伸びないので、全体的に買い控えをしている感じがする。通常の伸び率を今月はまだ超えておらず、全体的に景気は悪い。
		百貨店(営業担当)	・最近では、消費抑制傾向から脱しつつある一方、将来の不安などの懸念材料や消費税の今後の議論等、消費マインドを慎重にさせる要因が払しょくしきれないことから、消費は横ばいで変わらない。
		百貨店(販売促進担当)	・ボーナス支給額は前年を上回る企業が多いという報道を目にするが、依然として可処分所得が低いことには変わりなく、消費につながると思えない。生活防衛疲れからか、消費行動は上向きになりつつあると感じるが、大幅な景気回復には至らない。
		百貨店(販売促進担当)	・一部では回復基調の報道も聞かれるが、実感としてはまだまだという感否めない。個人消費がやや上向きなのは節約疲れが主たる要因で、一過性のものである。
		スーパー(総務担当)	・製造業では受注が回復傾向にあるとのことだが、消費者の収入増にまではつなげない。
		スーパー(総務担当)	・際立って売上が伸びているという部分は無く、全体的に横ばいでほぼ前年並みであり、特に良いところも極端に悪いところもないという状況が続いている。
		スーパー(統括)	・大型安売り店出店の影響で、全体としては1点単価はますます下落傾向にあるが、品質に一定の安心感を求める傾向から、一部の商品、特に日配品で低価格商品ではなく、原料や産地にこだわった商品の伸びが顕著である。
		コンビニ(店長)	・世の中では少し景気が良くなっているような話であるが、当店の場合は特にぜいたく品などもなく、景気自体は変わっていない。また、本当に最低限必要なものが買われるだけで、不要不急のものを一品買い足すような買い方はここところずっとない。
		衣料品専門店(販売担当)	・悪くなる一方であるが、この悪さは残念ながら今後も継続し、変わらない。この数日間は、サッカーワールドカップの効果や、気温が高い影響もあり、比較的客の流れが良くなってきている。精神的に安心感があれば、消費行動もそれなりに変化してくると実感している。
		家電量販店(営業担当)	・昨年はエアコンが売れていたが、今年は売れていない。エコポイント終了後のテレビの売行きが厳しいのではと不安である。新型多機能情報端末が発売されたので、今後、期待したい。
		乗用車販売店(営業担当)	・客の購買意欲がはじめてきているが、契約までは時間を要し、途中で駄目になってしまうケースもあり、まだまだ不安定である。
		乗用車販売店(販売担当)	・エコカー減税、補助金の駆込み需要で現在の販売量が推移しているので、補助金制度終了後が怖い。2~3か月後は変わらない。
		自動車備品販売店(経営者)	・身近な企業の工場の仕事が少なくなっており、また、工場そのものが外国に行ったり、行くという噂があって、不安要因が大きい。
		住関連専門店(店長)	・来客数は前年並みになってきているが、客単価が下がっている。
		住関連専門店(開発業務責任者)	・株価の不安定さと年金等将来に対する不透明さがある。
		観光型ホテル(営業担当)	・ここ数か月で観光事業に影響の出る要素も思い当たらず、また第三次産業は景気動向の動きが見え始めるタイミングが遅いので、すぐに動きがあるようには思えない。
		都市型ホテル(経営者)	・世間の不安材料が一杯で先が見えない。
		都市型ホテル(支配人)	・やはり、経済情勢が良くなって、出張その他のビジネスマンの動きが良くなれば宿泊の需要は増えない。現状では先の景況がよく見えないので、変わらない。
		旅行代理店(従業員)	・旅行業界は景気の動向に左右されやすい業種なので、世間の雰囲気が悪くならないと当分低迷は続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（副支店長）	・3か月先の受注数は前年と比べ同じか少し多いような気がするが、仕事自体は小さく、薄利のものが非常に多い。また、大口団体が減少しているため、契約額も非常に薄利な価格である。金額が伸びる海外旅行も旅行離れがあり、受注が少ない。
		通信会社（局長）	・ボーナス期、夏休み等で一時的な販売の変化は期待できるが長期的な傾向とはならない。
		通信会社（営業担当）	・客に対応しても、最後の最後には購入見送りという場合が依然多い。
		通信会社（営業担当）	・まだまだ夏のボーナスが支給されない企業も多い。さらには消費税の話も出て来て財布のひもは緩まない。
		ゴルフ場（従業員）	・来場予約が増えていない。
		ゴルフ場（支配人）	・予約状況は前年とほぼ変わらないが、周辺のコースと単価について大変厳しい争いになっている。
		ゴルフ場（業務担当）	・このところ、入場者は前年比マイナスの状況が続いているが、売上は単価が前年を少し上回っている。先行きについては、ほぼ前年並みの取込みをしているので、入場者は若干下回るかもしれないが、単価はほどほどで、今期の7割ほどの売上が確保できるので、総体的にはあまり変化はない。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・一部大企業と違って、我々一般の中小企業は、やはりそれほど景気の持ち直しが感じられない。どちらかと言うと給与体系の見直し、値下げの傾向にあって、今後3か月を見ても、新しい良くなる要因は今のところ見当たらず、このままの状態がしばらく続く。
		その他サービス[清掃] (所長)	・ボーナス支給、夏季休暇や中元など、景気が回復する材料はあるが、必要以外の商品等には回さないため景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・新しい仕事の話が無く、今抱えている仕事も少ない。
		設計事務所（所長）	・参議院選挙がどういう結果になろうとも、すぐに景気が良くなるものでもない。景気が上向いていると感じているのはごく一部の業界であって、建設関連業種は相変わらず景気の底辺をはいつくばっていかなければならないとあきらめムードの状態である。
		設計事務所（所長）	・1か月後には夏休みもあり、稼働日数が少ない日程で、いかに効率よく動くかが今後の課題となる。
		住宅販売会社（従業員）	・受注状況の急激な好転は望めず、もうしばらくは苦しい状況が続くと見込まれる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今、シーズンでこのような状況なので、2、3か月先になると、今よりも悪くなる。
		商店街（代表者）	・子ども手当が支給されて消費に回れば商店街も幾分潤うのだろうが、あまり期待ができない。
		一般小売店[乳業] (経営者)	・まだまだ消費意欲の縮小は続く。
		衣料品専門店（店長）	・初秋ものは天候に左右されやすいので、涼しい日が続けば秋物の立ち上がりは早くなり、売上が取れるのだが、例年残暑が厳しく、あまり期待できない。
		家電量販店（店長）	・12月で終了するエコポイント商品が回復して動きが出なければ、やや悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金の終了に伴い、販売量が減少する。
		乗用車販売店（販売担当）	・当社関連の企業が支店を撤退させたり、他社ディーラーが販売台数の落ち込みや経費の削減のために個人店に店舗を譲ったりと、全く先が読めない状態である。各営業所、支店でも、輸入車を扱っている所はほとんどと言ってよいほど撤退したり縮小したりしており、これから先も輸入車の販売が伸びるという要素が全く無いと思うので、当社などの輸入業者、輸入車を売っている所は全く先行きが見えない。
		乗用車販売店（管理担当）	・消費者の購買意欲があるようには見えず、先行き不透明の状況においては今後は消費低迷が続く。
		高級レストラン（店長）	・政治や経済の先行き不透明さに加えて、地域の集客力低下、中心街の衰退が著しく、底の見えない状況が続いていく。
		一般レストラン（経営者）	・あらゆる異業種の人と話す機会があるが、皆一様に景気が良くないと話している。それぞれの業者が、なかなか景気が良くならず、非常に苦しんでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・駅前にまた新しくホテルがオープンし、飲食店もたくさん出店しており、老舗の店が撤退して、居酒屋風の店が多くなってきている。我々の店も古い建物になっているので、大変厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・総会関係が終わって、せいぜい暑気払い程度の動きしかない。夏はどうしても動きが鈍ってしまう。また、宿泊に関して、スポーツ関係、学校関係などいろいろなイベントが若干あるが、関東地区内での持ち回り開催になると、今年は当地でないこともあり得るので、宿泊は減少する。
		タクシー(経営者)	・5月が良かったので、6月も良いと思っていたが、月末から悪くなったので、この先も不安である。
		遊園地(職員)	・一般家庭の所得減少による消費マインドの冷え込みが、レジャー支出抑制につながっており、この影響が大きいので、もうしばらくは消費単価の大幅な伸びが期待できない。
		設計事務所(所長)	・サッカーワールドカップの盛り上がりはあるが、それが景気や消費拡大に結び付かない。この状態を脱する材料が見当たらない。
		住宅販売会社(従業員)	・来客数の落ち込みが続いていることに加えて、資料請求数が前年比50%以上の落ち込みとなっている。
		住宅販売会社(経営者)	・消費税増税の雰囲気、消費の低迷が予想され、一段と消費が冷え込むことが考えられる。その影響で悪くなる要因のほうが多い。
	悪くなる	美容室(経営者)	・例年より今年の方が売上が減少しており、6月のボーナスは今年も出せなかった。家族での旅行等で消費の動向が変わって、夏休みにはいっそう、来店回数が減っていくだろうと推測している。出入りの銀行員もこの不況で逆にお金を貸せない、借りて欲しいところは絶対と言ってよいほど借りない、と本音を漏らしている。
企業 動向 関連	良くなる	その他製造業[環境機器](経営者)	・自社開発の環境装置の直接の5年間リースのため、先にいくほど安定する。
	やや良くなる	食料品製造業(製造担当)	・出店する店舗があるので、生産量は確保できる。前年比でほぼ90%に上がりつつあるので、売上は良くなっているが、肝心の利益が思うようには上がってきていないので、これからである。
		金属製品製造業(経営者)	・得意先からの話では、8月になったら仕事が出るようになっていっているので、それに期待して良くなる。
		一般機械器具製造業(経営者)	・全体の数字としては、まだまだ低調ではあるが、建設機械関連の増産が軌道に乗るとともに、自動車を中心とする新規開発案件の増加が予想される。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	・10数社取引先があるが、大分多くの取引先で仕事量が徐々に増えてきているので、これからやや良くなる。
		輸送用機械器具製造業(総務担当)	・メーカーの国内販売はさほどではないが、北米、中国への輸出が非常に好調に推移し、今後もそれが維持される。エコカー購入補助金の終了以降を心配しているが、3か月インフォメーションを見ると、高水準の受注を維持しているので、引き続き景気は上昇傾向に入っていると見ている。
		金融業(経営企画担当)	・若干ではあるが、観光地で外国人観光客、特に中国人の増加を見込んだホテル、旅館等の新築、増改築等の設備投資資金需要が見られる。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	・客の引き合いや受注状況から見て、少しは改善される。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	・店頭商品の新製品受注がいくらかあるが、2~3か月先の受注は未定である。
		窯業・土石製品製造業(総務担当)	・大変厳しい状況が続くことは変わらないのではないかとと思うが、参議院選挙でどのように政策の変化がみられるか、期待するところである。
一般機械器具製造業(経営者)		・不確定ながら10月から若干作業量が増加する見通しであるという情報がやっと入ってきた。もう少しの辛抱と思う。	
一般機械器具製造業(経理担当)		・今まで作っていたものは増えないと思うので、医療とか環境関係の国内生産が増えれば変わってくる。	
電気機械器具製造業(経営者)		・当社は製造、外注であり、客先の動向に左右されてしまう。中堅の客先からは相変わらず受注がない。	
電気機械器具製造業(経営者)		・産業用の機械が少し動きだした気がするが、公共関係の注文が全く出ないため、厳しい状況である。民間は活発化しているが、以前と違って単価がかなり厳しく、経営状況は苦しい。	
電気機械器具製造業(営業担当)		・客先、取引先の様子を聞いても、仕事が無いという話が多く、先行きの見通しがなかなか立たない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		輸送業（営業担当）	・子ども手当の給付が始まって購買意欲が押される層も出てきている。家電、雑貨、ネットショップ、テレビショップや様々なレジャー品などの輸送も右肩上がりになってきている。しかしながら業界的にデフレ経済の中、単価自体は割安のものが多く、燃料は一時的に下がっているものの、コスト削減も求められているので利益確保は難しい。		
		金融業（総務担当）	・取引先によって業績が堅調なところとそうでないところのばらつきが大きく、今後も今と同様の状態が続く。		
		金融業（役員）	・各業種とも新たな設備投資計画が見られず、資金需要の背景は相変わらず赤字補てんが数多く見られる状況にある。		
		不動産業（営業担当）	・周りに国の機関や研究所が多いが、そういうところは今いるいと予算を削られていることもあり、不動産、ホテル関係は、良くなる様相というのがない。現実的にこの地域で仕事が多くなっているという雰囲気は無いが、極端に悪くなることはないで変わらない。		
		広告代理店（営業担当）	・地方景気はまだまだ良くなる兆しが見えない。生き残れる会社かどうか、答えが出る時期が来る。		
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・製造業に明るさが見え始めたとの話もあるが、リース会社の話では、設備投資もそれほどものは少なく、修繕やメンテナンス的な費用が多いと聞いている。小売業では家電、車等は比較的好調だと聞くが、衣料、雑貨はじめ売上が伸びていないとの話も多く聞いている。		
		経営コンサルタント	・小売業、消費財関連業種は今後の給与所得等の動向いかんと思われる。他方、企業の投資活動はやや動きがあるものの、部分的であり地域経済全体の押し上げ効果には遠い。		
		社会保険労務士	・相変わらず単価を下げて売上を伸ばそうとする動きが強く、値下げ要請が厳しい。デフレ傾向が続き、回復するのはまだ先だと思われる。		
		やや悪くなる		化学工業（経営者）	・これから夏休みに入ってくると、取引先の需要も落ちて来る。注文もだらけてしまって、なかなか成約がしにくくなって来る。
				電気機械器具製造業（経営者）	・まだまだ長期的受注は得られない上、今ある仕事もいつ減るか不安が続いている。
その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・悪い状況が続いていて状況は変わっていない。在庫調整や経費の削減で対応しているが、徐々に体力が落ちている。				
不動産業（経営者）	・全体的に見て、若年層の支出額の減少と、消費に対して慎重な様子が見受けられる。日本全体の消費力が落ちてきているようで、身近で接する若者には、完全雇用の若者が多くなく、不安定な就職が定着しているように観察される。				
悪くなる		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・関係の会社がまた一つ倒産することになった。		
		建設業（総務担当）	・5月から、受注の大幅減が原因となって、県内建設業の倒産が多かったのだが、現在の発注状況を踏まえると、今後も建設業倒産が続くことは間違いない。当社も金融機関から新規融資が受けられないので大変厳しい状況が続いている。		
雇用関連	良くなる	-	-		
	やや良くなる	-	-		
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・介護関係、サービス業の賃金引き上げが難しい上に、まだ野菜関係では値段の高いところが目立っていて、消費が厳しい状況で、動きは横ばいかと思われる。医療関係もなかなか売上が伸びておらず、他社でもボーナスが出る所もあるので幾分期待は持っているようだが、厳しいのではないか。		
			人材派遣会社（営業担当）	・パート等の臨時系の求人が活発で、この種の人材の獲得は、中小企業が意欲おう盛である。	
		求人情報誌製作会社（経営者）	・製造業では生産量の回復はして来ているが、求人をしてまでの安定的な回復にはまだまだ至っていない企業が多い。		
		職業安定所（職員）	・派遣求人等の増加が目立っており、事業所の直接の雇用、求人も増えつつあるが、内容的には良くなっているとは思えない。なお派遣の求人を見ても短期的なものが多い。		
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の申請をする企業は前月より若干減少してきているが、新たな雇用調整の相談企業も出てきている。		
		職業安定所（職員）	・中小企業を中心として求人、採用への意欲が低く、特に正社員に関して顕著である。窓口を訪れる求職者の動きに落ち着きが表れてきているが、企業側の受け入れは狭いままの状態である。		
職業安定所（職員）	・産業別で見ると、福祉、医療関係の求人では依然として人手不足の補充求人が多い。製造業の集中する地域は求人全体では12%程度だが、派遣、請負、パートといった求人割合が大変多く、景気回復のテンポは引き続き緩慢と考えられる。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・製造業、とりわけ食品製造、デハイス系の受注量が、徐々に減少しつつある。また、今後も増加する傾向が見受けられないので、しばらくはこのままの状態が続く。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製造業における現業部門の海外シフトは衰えを見せず、人余り状況を吸収する他業種も力が弱く、業績を伸ばす企業と現状維持あるいは減少する企業との差異が明確になってきている。中高年の再就職が困難な状況にあり、技術力、専門力が乏しい求職者には、受難の状況が続いている。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・活発な市場であった医療、福祉の分野でも充足率の高まりなのか、あまり採用が活発になっていない。景気の影響か、欠員が出ないようである。他業種も同様で、一括管理での採用試験が行われ、非常に厳しい。
	やや悪くなる	人材派遣会社（管理担当）	・参議院選挙後の派遣業界は労働者派遣法の改正等があると思うので不安である。終身雇用の世の中が少しずつ雇用形態を変化させてきたのに、突然注目されたため、法的な対策を打たれるのはとても不安である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まだまだ地方の景気は冷え込んだままであり、回復にはしばらく時間が掛かりそうである。
悪くなる	-	-	

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	家電量販店（営業統括）	・夏のボーナス支給が始まり、消費意欲が活性化している。低価格を求める思考は変わらないものの、節約に疲れた雰囲気があり、客単価も上昇傾向となっている。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・ボーナス時期であり、テレビも地上デジタル放送まで1年ということで需要がある。
		百貨店（総務担当）	・一時期より衣料品や飲食の売上が回復傾向にある。
		百貨店（広報担当）	・6月のプレクリアランスセール縮小の結果、7月1日からの夏のクリアランスセール全店一斉スタートは一定のインパクトが期待される。また、6月中旬からの秋冬物の早期展開はイベント動員効果もあり、新しいスタイリング提案に反応があるので、セール以降の本格展開に期待している。
		スーパー（店長）	・競合店に負けないよう価格も安くしており、客をつなぎとめている。これ以上悪くなると困るし、底打ち感もあるので、期待を込めてやや良くなる。
		スーパー（総務担当）	・8月に閉店するため閉店セールを行うが、客は刺激を求めており、新しいものや閉店、開店といったイベント性の高いセールは客の購買動向に大きな刺激となり、集客が期待できる。
		コンビニ（経営者）	・長期的な予報でこの夏は非常に暑くなると聞いている。暑くなると飲料関係が多く出るので、非常に影響が大きいので期待している。
		コンビニ（経営者）	・デフレ感もそろそろ底を付いてきたと感じているので、3か月後はやや良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・来客数が増えてきており購買意欲もかなりあるので、エコカー購入補助金の効果でもう少し伸びる。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・世界最大のビデオゲーム展示会で発表された新しいゲーム端末などの新装置が市場を刺激する材料となるため、やや良くなる。
		高級レストラン（副店長）	・ここ2～3か月の当店の売上を踏まえると、先行きはやや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・今後企業が少しずつ黒字になって、少しは経費でも落とせるような状況になってくるような気がする。これからは少しずつ政権も安定し、しばらくは良くなる。
		旅行代理店（支店長）	・今月がかなり悪い月だったので、2～3か月後は良くなる。夏場以降は法人の問い合わせ、秋の旅行の見積が増えていく。旅行は団体も個人も含め、少し回復する。
ゴルフ場（支配人）	・3か月先の予約状況が数年前に戻りつつある。		
住宅販売会社（従業員）	・建売業者の積極的な土地仕入れや、マンション業者もようやく新規の供給を始めてきたことから、物件数が増えてきて市場が動く。また、最近の消費税増税のニュースに消費者が敏感に反応し、増税前に動かなければという意識が出てきていると思われ、実際、来場者数が増加している。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	商店街（代表者）	・8月に花火大会とふるさと祭りの2大イベントがあり、売出しも計画されているので来客数の大幅増を期待している。しかし、花火大会の寄付金や祭りの花代は年々減ってきている。商店会のイベント運営が厳しい状況にあるが、地域の活性化のためにも頑張りが必要である。
		商店街（代表者）	・参議院選挙がいよいよ始まるということで、今月は停滞気味となってる。今後は非常に価格に敏感になって来ると、そう暑くもならないので、変わらない。
		商店街（代表者）	・今月は特別な売出しをしているのでそれなりの来客はあるが、今後は特別な売出しもないので、難しい商戦になるのではないかと心配している。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・景気が悪い中でも、エコポイント制度効果もあり、夏場のエアコンは少しは売れる。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・一般の企業、業種より景気の良し悪しは遅れて影響して来るので、近いうちに良くなることはない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・今までの古い客が戻ってきたり、ちょっとした良い商品が売れ始めたりしており、末端の小売業にもようやく売行きが戻って来た感があるので、先行きの心配はしていない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月は可も無く不可も無くということだったが、今後も同じような状況になる。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・ここところ仕事は増えているが、近辺の同業者が指名停止などで入札できなくなったりするため、一時的なものである。これを期待に入れるわけにはいかないが、かといって下がっているわけでもないで、大体横ばいとなる。
		百貨店（総務担当）	・政治不安、金融不安があるのか、積極的な購買意欲がみられず、買い方は依然として慎重である。この状況はしばらく続く。
		百貨店（企画担当）	・節約疲れなど要因は多々あるかと思うが、来客数は下げ止まった感がある。このままの状況を維持できれば、それほど悪化の要因はない。
		百貨店（広報担当）	・政局や世間の風潮ですぐに潮目が変わり、景気が上向き気配は時折みられるものの、継続しない。消費税増税の話などが落ち着かないと、安心して買物はしづらい。
		百貨店（営業担当）	・宝飾時計、特選婦人服、特選紳士服等を中心に、富裕層の購入額が増加しているものの、ボリューム層の顧客の動きが各品目ともまだまだ鈍く、景気が回復したとは言えない状況が続いている。
		百貨店（営業担当）	・購買単価の下降傾向、購買客数の増加傾向はしばらく続く。参議院選挙の結果次第により、将来の不安に対する対策が講じられればこの基調は続くが、有効な手立てがなく問題の先送り感が強いと、財布のひもが緩むことはない。景気悪化から約1年半経ち、購買意欲が戻りつつあることは実感できるので、購買単価の回復が待たれる。
		百貨店（営業担当）	・気温上昇により夏物需要で来客数は上がってきているものの、クリアランスの商材も少なく、売上確保も厳しい状況にある。秋物も実需時期にならなければ顧客の反応はないと考えられ、ヒット商品がない中、厳しい状況は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・現状の条件付き購買動機や年齢層によって異なる消費感覚が、参議院選挙や消費税など消費動機を左右する関心事項によって、秋に向けてどう変わるかがまだ判断できない。今後の実績確保に向けては、現状から見る初秋の動向の早期把握と、商材確保、訴求が必須と考えている。
		百貨店（販売促進担当）	・ボーナスの支給が減っているなか、景気が上がる実感はなく、第3四半期が終わるまで景気回復が望める要素が見当たらない。
		百貨店（業務担当）	・どの商品をとっても力強く前年比でプラスと言えるものはないが、少しずつ前年比でのマイナス幅が小さくなっていく。単価ダウンが顕著に現われている現状や、ここ3か月の間に何か売上全体を押し上げるような要因があるか考えてみると、疑問が残る。
		百貨店（営業企画担当）	・社会不安が払しょくされない限り、保守的な消費行動は続く。
		百貨店（店長）	・輸出業が急激に悪化し、株価もまた1万円台を割り込む景気の中で、一般消費が上向きなのは当分先のようなようである。
		百貨店（副店長）	・購買意欲、活気が見られない。
		百貨店（販売管理担当）	・商品単価の下落が続いており、回復傾向が見られない。来客数の増加にブレーキがかかってきたことから、2、3か月で回復するとは判断しづらい。
		百貨店（営業企画担当）	・衣料品については天候にもよるが、苦戦することが想定される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・景気回復実感はなく、セールやクリアランスでの賢い買物ニーズは続く。買物に理由付け、納得感を見出さなければ購買に至らない客が確実に増えている。
		スーパー（経営者）	・業界によっては、少し景気が良くなっているという話も聞くが、流通業界ではそういう感じが全く無い。国の借金も大分あるので、将来に対する不安から余計な物はなるべく買わない、買い控えをしようという意識が強い。
		スーパー（店長）	・サッカーワールドカップや参議院選挙の影響で、一時的に多少消費は活発になると思うが、長い目で見れば何も変わっておらず、厳しい状況は当面続く。
		スーパー（営業担当）	・国民総生産が上がるための景気対策を打たなければ、根本的に良くなるとは思えない。
		スーパー（仕入担当）	・口蹄疫、政治等不安要素があり、消費は活発化して来ない。
		コンビニ（経営者）	・客の低価格志向が止まらず、売上が回復する兆しが全く見えてこない。
		コンビニ（経営者）	・周囲のいろいろな状況を見ても、あまり良さそうな材料が無い。
		コンビニ（商品開発担当）	・政治不安、景気不安が依然として強く、買い控えはもうしばらく続く。
		コンビニ（商品開発担当）	・食品等の消費が上向き好材料が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・一時よりはまとめ買いの客も目立ってきたが、まだ全体の売上を押し上げるほどの変化はない。
		衣料品専門店（経営者）	・婦人のアウター、夏物が好調なので、この夏は久しぶりに良い状況になる。
		衣料品専門店（店長）	・やっと安定した客数などが確保できたところなので、ここから先またさらに大きく上積みがあるとは思っていない。
		衣料品専門店（店長）	・気候と流行の影響もあるが、来客数が下げ止まってきている。ただし、客単価は下がっているため、プラスマイナスで考えると現状維持である。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント効果は一巡したが、冷夏で昨年不振であったエアコンに期待ができる。
		家電量販店（副店長）	・8～9月といういわゆる閑散期のなかで、商品単価下落と共に財布のひもが固くなっている状態にあるため、景気回復は難しい。
		乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っているが、販売はエコカー購入補助金があるにもかかわらず、あまり結果が出ていない。9月にはエコカー購入補助金も打ち切られるということで、9月以降は不安である。
		乗用車販売店（総務担当）	・9月までは現状維持でいけるが、10月以降については今の売り方をしていたら企業存続に影響する。
		住関連専門店（統括）	・今後、悪くなるのではなく、現状の悪い状態が続く。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・医薬品の売上が回復しているのは明るい材料だが、昨秋までインフルエンザ関連の数字が大きいいため、前年並みにするのが精一杯である。
		その他専門店 [雑貨]（従業員）	・景気が良くなるような画期的なイベント等がない。
		その他専門店 [服飾雑貨]（統括）	・6月に入り販売量の勢いが鈍化している。消費者の財布のひもがきつく、子ども手当の効果も顕著に表れていない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	・物販の客数は増えているが、客単価の下落傾向が続いている。飲食は客数、客単価共に下落しており、下げ止まり感がない。月末からのバーゲンセールに期待しているが、現状の中では変わらない。
		高級レストラン（支配人）	・1年前ほどではないにしろ、一般宴会の受注が伸びていない。前年の水準を維持するのに精一杯である。
		一般レストラン（経営者）	・商店会で各商店のオーナーと話をしても、当社の店長会議においても、この先良くなる話はほとんどない。
		一般レストラン（スタッフ）	・下げ止まっているという意味で変わらない。一応借金もなく、何とかぎりぎり回している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン部門はフリー客が多いので判断が難しいが、先の予約は土日を中心に前年とほぼ同じ人数の予約が入っており、今年に入ってからのフリー客の流れが続けば見込みは明るい。宴会は婚礼を中心に取り込み強化策を打ったことで多くの婚礼受注があり、本年下期は前年よりベースが底上げとなっており、これからの一般法人宴会がどれだけ取り込めるかだが、前年並みの予想を立てている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・競合が増え、婚礼、結婚披露宴の予約状況が競争激化により大変厳しい状況で、予約の伸びが頭打ちになっている。単価も全体的に若干下がり気味の傾向がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・業務渡航需要が回復となるまでは景気が戻っていない印象がある。
		タクシー運転手	・定期的に週1回長距離チケットで乗車する客や、都心の百貨店に買物に行く固定客が少しずつ戻ってきている。今後は全般的に客の動きが期待できる傾向にある。
		タクシー（団体役員）	・とにかく景気と天候に左右される業界なので、今の景気状況だと多くは望めない。
		通信会社（営業担当）	・個人の地上デジタル放送対策に伴う効果も一巡し、著しい伸びはないものの、大手他社に比べて安価なネット、電話サービスと共に堅調に推移する見通しである。
		通信会社（営業担当）	・同業他社との価格競争が激化しているため、契約数回復の兆しが見えて来ない。
		通信会社（営業担当）	・収入が増えていないので買い控え傾向にある。
		通信会社（営業担当）	・大手他社による攻勢が目立ってきている。新規顧客の市場は頭打ちとも感じられ、他社から切替えを狙う顧客の奪い合いをせざるを得ない。
		通信会社（管理担当）	・解約の増加傾向は一時的に止まっているが、いまだ予断を許さない状況に変わりはない。
		通信会社（支店長）	・買換えの実績が前年同時期と比較すると大幅に下回ってきており、買換えサイクル自体が長くなる傾向にある。
		ゴルフ練習場（従業員）	・練習場は暑くなると客数が落ちていく。付帯するレストランの売上、予約状況などを見ても、特に大きく予約が増えているわけではないので、景気は変わらない。
		パチンコ店（経営者）	・上向きような要素もないが、悪くなるような要因もない。横ばい状態が続く。
		競馬場（職員）	・消費を抑える傾向は続いている。プラスの面もうかがえるが、力強さが感じられない。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・マクロ的には回復に向けた好材料はない。引き続き、企業努力として顧客のニーズに合った商品、サービスの提供に努めるしかない状況である。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・産業が二重構造になっているというか、大企業を中心として三角形に広がる中小の企業数があった時代と若干変わってきており、大企業の業績がその他の企業に波及するかという点必ずしもそうではない気がする。しばらくして一般の消費状況が上がらなければ、あまり景気は良くならない。
		住宅販売会社（従業員）	・来客数が変わらない。
	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・特に変わるような理由が見当たらない。	
	やや悪くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・商品の価格帯がすごく下がっているの、販売量が増えたとしても、全体の販売額がどうしても届かない。どこもかしこも景気が良いとは言えない状態なので、客の設備投資も少なくなっている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・給茶機等の機器販売、原料共に売上減が進行している。企業の福利厚生費等の削減だけでなく、個人のお茶購入についても売上が減少している。
		衣料品専門店（経営者）	・まだまだ買い控えの傾向にある。生活必需品を優先するため、なかなか普通の消費に回ってこない。
		衣料品専門店（営業担当）	・衣料品メーカーが物を作り過ぎない、残さないことばかりを考え、実売期に売りたい物が少ないことがここ最近の動きである。このことを踏まえると2～3か月先、暑い時に売れるものがなく、残り物ばかりで単価も落ち、なかなか数字が上がって来なくなる。
家電量販店（店員）		・低価格で横ばいの状態が続くなか、よほど性能が良い魅力のある商品が出ない限りは変わらない。ただ、携帯電話の新機能商品等が登場してきているので、本当にパソコンは必要なのかと問われたら、必要でない時代に入ってきた可能性もある。	
乗用車販売店（渉外担当）		・エコカー購入補助金の恩恵で、駆け込み需要はあるものの、前倒し購入があるのも否めない。補助金は9月で打ち切りになるので、購買意欲低下は一定期間続く。	
乗用車販売店（販売担当）		・リーマンショック以降、大型トラックの需要は通年の半分以下になっている。今回環境対応車への購入補助金を得たことにより、6月までの登録であれば事業用は間に合うだろうと前倒しでやってきたが、6月以降のバックオーダーは相当減っており、今月の受注も予定の10分の1程度となっている。今後についても、トラック製造は相当落ちて厳しくなるという予想が出てきているので、新たな購入補助金などが出てくるのを願うしかない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		都市型ホテル(支配人)	・先々の販売量も前年比でやや落ち込んでいる。	
		都市型ホテル(スタッフ)	・婚礼の少人数化が進み、総額の売上が落ち込む予定である。	
		旅行代理店(従業員)	・団体航空運賃や宿泊代が高くなる夏場は団体旅行が敬遠されがちで、問い合わせの件数や受注件数も少ない。また参議院選挙で旅行の動きが控え気味になっている。	
		遊園地(職員)	・消費マインドの冷え込みからの脱却を期待できる要素が見当たらず、消費者の支出抑制傾向はまだ続く。	
		その他レジャー施設[ボウリング場](支配人)	・消費税の増税問題や政治が不安定なうちは消費者の安心は得られず、結果、子ども手当等の対策を行っても貯蓄に回り、レジャーへの消費は控える傾向が続く。	
		その他サービス[学習塾](経営者)	・人的には横ばいだが、塾全体の単価が下がっているため、売上の金額も上がらない。	
		その他サービス[学習塾](経営者)	・前年に比べて授業料を払えないために塾を辞める生徒が少し増えている。	
		設計事務所(経営者)	・仕事のほとんどが耐震診断になっている。耐震診断は国の行政の一環であって、今年もしくは来年で仕事がなくなる。また、普通の設計の仕事はほとんど無くなっており、仕事が出ていても現在、非常に低価格競争になっている。そういった意味での不安が最近顕著に表れている。一般の仕事を取りたいと思っても、構造事務所以外で耐震診断をやっていない所がそういうものを狙うので、低価格になってしまう実情がある。本当に先が見えない。	
		設計事務所(所長)	・まだ悪くなる部分が残っており、体力のある会社ももっと冷え込んでくるような気がしてならない。そしてまた、投げ売りが始まりそうである。	
		設計事務所(所長)	・今はかなり仕事量が少なくなっているため、この状態が続くと相当厳しくなる。	
		設計事務所(所長)	・明るい話はない。	
		設計事務所(所長)	・いずれにしても仕事量が激減している。なかなか新しい情報等もなく、競争も難件化がますます進んでいる。このままだければ景気が良くなるとはとても予想できない。	
		悪くなる	一般小売店[茶](経営者)	・最近特売日の売上、来客数は若干多くなっているが、普段の日は減少し、落差が大きい。商店街は日中は人通りも無く閑散としている。
			一般小売店[食料雑貨](経営者)	・政治が安定しない状況から、雇用を含め将来の不安がまん延している。零細、中小企業が潤わなければ給料が上がる実感もなく、消費につながらない。消費税が上がる前には駆け込み景気があるし、法人税の引下げは明るい材料である。
			衣料品専門店(経営者)	・夏物セールが前倒しで早くなり、当店のある商店街では大型店に対抗できないので、集客に苦しんでいる。
乗用車販売店(経営者)	・エコカー購入補助金の終了後は販売量が激減する。			
一般レストラン(店長)	・今月はボーナス月で来客数も多少伸びているが、今後は引き締めるといって客が多く、レジャーも夏休みも控えているので、3か月先はかなり落ち込む。			
タクシー運転手	・やはり参議院選挙期間中ということで政治が動かず、景気の状態は全く先が見えない。また、一時、持ち直したと言っているが、各会社の業績などを聞いていると、あまり良く無いようなことを客が言っている。			
通信会社(経営者)	・先の見通しが感じられない。			
その他サービス[立体駐車場](経営者)	・契約している会社が、社員を減らして車の台数を減らしたり、月ぎめ料金の安い駐車場に移り始めている。			
企業動向関連	良くなる やや良くなる	出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・個人、法人共に、少しずつ上向いている。コンビニオンをやっている会社では、名刺を普通は1、2ケース注文するが、今回6ケースまとめたの注文があり、今後の方向を見ての発注ではないかと感じている。また、個人で、小さい企業の人が焼き鳥屋を始める等の注文が来ている。	
		一般機械器具製造業(経営者)	・7月の内示を見ると、今月よりもまた少し良くなっているような受注量になっている。8月は毎年休みの関係で落ちるが、9月もこれなら行けるのではないかと印象である。	
		金融業(渉外・預金担当)	・全体的に明るい状況が広がってきている。このような感じはいつも続く気がするので、この先も当面は良くなる傾向である。	
		広告代理店(従業員)	・ノベルティ商品で、客先が少しでも安い商品を求めている。類似商品で当社の商品が適当と判断され、売上増が見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		広告代理店（営業担当）	・参議院選挙で少し政局が落ち着く。また、サッカーワールドカップの思わぬ日本の勝利が世の中を明るくできているため、やや良くなる。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・緩やかに回復する兆しが見えてきている取引先が、わずかではあるが出てきている。
		食料品製造業（経営者）	・個人消費が本当に上がってこない、当業界も景気が良いという印象にはなかなかならないが、それが見えてこない。
		食料品製造業（経営者）	・何かきっかけがあれば消費が上向くと思うが、まだ変化がみられず、この景気が続く。
		繊維工業（従業員）	・韓国では、東大門駅周辺に中小、零細企業600社を集約した大規模な「縫製ルネッサンス・ファッションタウン」を建設。日本のバイヤーにも直接登録を呼びかけてきており、日本の中小、零細企業が生き残りを掛けるニッチな市場にも攻め込んできている。中小、零細企業は韓国の国策の前にますます脅かされており、生き残る道は狭められる一方である。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・景気の良くなる要素が無い。
		化学工業（従業員）	・マンション建設工事が大幅に減少しており、消耗品の使用も減少傾向になっていく。ただし、電子部品に使用する製品は少し増加傾向にあるため、総体的には横ばいとなる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・この先、中国、東南アジアの輸出関連がさらに伸びても国内需要が伸びない限り、国内の景気が本当に良くなっているという予測はできない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・相対的に回復速度はなかなか思うように進まないが、化粧品容器に限っては増産見込みがあるので、予定どおり動けばと期待している。
		金属製品製造業（経営者）	・受注量は増えていく傾向にあり、景況は良い方向に感じるが、価格面では相変わらず厳しく、改善される気配は無い。
		一般機械器具製造業（経営者）	・前月は良くなる気配が少しだけ見えてきたかと思ったが、売上はほとんど同じということで、今後も変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・はん用機械、装置のメーカーで限定された特殊な装置のために、需要が消えるのもやはり一般的な景気の調子を思うと、売れない。購入する動機が客に起きてこないため、当分は景気が良くなるまで、待ち続けるより仕方ない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・売上の回復は外的要因と内的要因がある。景気の悪いことや政治のせいにははいけないと思う。我々はメーカーなので、新商品を開発したりして販売を伸ばしたい。しかし、お金と時間が掛かる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・親会社はなかなか良いようだが、当社のような下請に回ってくるにはまだ時間が掛かる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・受注量は増えるが、客先からのコストダウン要請が強い。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラックのほうも年度が変わればまた何か良い方に変わるかと思ってはいたが、少し良くなったという感覚も全然表れてこない。道が外れているのではないかと思うくらいである。もう少し明るいニュースは無いのか、このままずっと行くのではないかと思う。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・今、業界が大きく変わってきているので、そのあたりの結果がどう出るかによって、かなり期待したいという気持ちである。しかし、全体的にはどういう風になるのかはよく分からない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・今月も売上金額が厳しい状況であり、好転する要素が見当たらない。
		建設業（経理担当）	・住宅版エコポイント制度もあまり反応がなく、ここにきての落ち込みを復活させるような対策も見えない。まだ低迷が続きそうである。
		通信業（広報担当）	・外需依存型の景気回復であり、中小企業にこれまで以上の好影響を与えるとは考えにくい。
金融業（役員）	・一部の業者に明るい兆しがあるが、全体としてはまだ厳しい状況が続いている。2、3か月先にこれが好転するとはなかなか感じにくい。		
金融業（支店長）	・売上等が少しずつ回復しているが、先行きがまだ見えないことと、親会社からの受注予想が短期的で、長期的なものが無い。それぞれの会社関係は不安があるということで、現在の景気とあまり変わらない。		
不動産業（総務担当）	・当社所有のビルでは、現在、空室率改善の見通しが立っていない状況にあり、景気回復を感じるのはまだ半年以上先になる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・ビル、工場の電気設備性能アップ、安全確保のメンテナンスを行っている電気工事業の企業では、第1四半期を間もなく終えるが、前年度以下の実績数値である。得意先各社の工事計画の先延ばしにあっていて、安全問題に直結するため、本来、優先順位の高い工事であるが、各社の先々の状況の読みは厳しいものがある。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・本業に関連している建設や不動産関係の動きが悪いので、現状維持という感がある。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・得意先は7月に入れば少しずつ増えると言っているが、具体的な回答が得られない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・6月に入っても受注量は増加してこない状況で、供給戸数が伸びていかないと結果につながらず、厳しい状況が続く。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・客先の様子から、変わらない。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・世の中良くなってきたと言われているが、当社の周りでは忙しい話など聞いたことがない。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・景気だけの問題ではないが、輪転機のような大量の印刷物をする案件がやはり減少していく感はますます強い。必要な所へ必要な枚数のみを印刷するスタイルをもっと確立していなくてはならない。
		金属製品製造業（経営者）	・大企業が価格にだけこだわり品質をおろそかにすれば、自社製品、ブランドに傷が付くことを知り、品質の良い物を世に送り出さなければ、日本のものづくりは消滅してしまうことを危惧している。
		金属製品製造業（経営者）	・海外向けが多いため、いずれは現地生産に切り替わる可能性が高く、国内で使用する部品が増えてこないと厳しい。
		輸送業（経営者）	・燃料価格が毎月のように上昇してきており、一昨年レベルの高い値段に近付いてきている。今後経営を圧迫してきそうである。
		輸送業（所長）	・近隣の倉庫の空き物件が増えており、相場も2～3割落ちているが、なかなか埋まらない。客に情報を流してもほとんど反応が無い。業界的にまだ上向いていない。
		不動産業（経営者）	・ワンルームは、春を越すと1年埋まらない物件が多数ある。
		広告代理店（経営者）	・希望的観測で「やや悪くなる」としたが、例年9月にある定例案件が飛んでしまうと、途端に「悪くなる」になる。つまり、新規案件の見込みや可能性が見当たらない、ということである。
	悪くなる	建設業（経営者）	・まだまだ企業の設備投資は行われぬ。
		輸送業（総務担当）	・荷主の計画では、年度の後半から徐々に動き出す模様である。それまでは、他社の仕事をもちうが、絶対台数の確保は無理であり、運賃は原価割れの単価である。
		金融業（支店長）	・生活雑貨や食品は低価格中心に売れる。他商品も価格重視で購入する傾向が強い。デフレ傾向に歯止めが掛からない限り、景気回復の兆しは見えてこない。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・退職する人があり、その補充に動く状況もあり、人の動きが感じられる。
		人材派遣会社（営業担当）	・携帯電話販売員の採用が増えてきており、順調に人材をマッチングできれば、長期就業者の増加が見込まれる。
		人材派遣会社（業務担当）	・欠員や不足人員に対し、最も早く対応することができる派遣業界の使いやすさを各企業が再認識してきている。人員の供給能力が景気向上の最大の鍵となる。
		人材派遣会社（支店長）	・年初と比べて増員での依頼が増えてきており、一部企業からは景気の良い話を聞くことが増えてきている。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は0.67倍で、前月比0.02ポイント低下となっているが、新規求人倍率が1.21倍で、同0.35ポイント改善している。4月は年間を通して新規求職者が多い時期で5月に有効求職者として残るため、有効求人倍率が低下したが、5月に新規求職者が大幅に減少し、新規求人数も若干ではあるが増加する動きがあり、2～3か月後には雇用情勢が改善していく。
		民間職業紹介機関（経営者）	・今まで動かなかった人が、少し基準が高くなってきたが、良い人がいれば採用する動きになっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・小売業の業績回復が鈍いため、変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・メーカー系企業を中心に景気回復感がみられ、雇用関連も活性化してくる。しかし、大手派遣会社への業務改善命令、厚生労働省の派遣適正化プランの影響、労働者派遣法改正、などの要因により、派遣業界にとっては経済市場の回復とはイコールにならない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・特定の採用分野で動きはあるものの、全体のパイは前年並みで推移しており、もう少し時間が掛かる。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新規事業による社員、アルバイトの求人募集の動きが出てきつつあり、少しずつ外部採用を考えている企業が増えてきている感じはある。一方で、既存での人材採用は、大きく活発になっている感じがないため、新規事業を計画している企業と既存事業を維持する企業での二極化がある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・景気が上触れするような主な要因が見当たらない。
		職業安定所（所長）	・一般の新規求人数はやや増えている。しかし、新規求職者数が前年同月とほとんど変わらずに高水準で推移していることや、新規高卒求人の出足が鈍いことから、景気が良くなるまでは考えづらい。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所においては、受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所が見られるようになってきているものの、大きな変化は無い。
		職業安定所（職員）	・求人数についても以前と変わらず厳しい状況にあるので、これから就職者数が増えることが予想されない。
		職業安定所（職員）	・今月も同様だが、製造業、運輸業、卸、小売業での減少傾向がまだ続く。
		民間職業紹介機関（職員）	・C I 値（景気動向指数）に関連性が深いのが、これまで回復基調がみられたものの、先行と遅行指数に下落がみられる。先行きが必ずしも明るいとは言えない状況ではあるが、求人数が着実に増えてきており、足元の景況感の回復は続く。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・事前の新卒募集計画の募集未定企業のみで、募集を開始する企業は多くはなく、例年と同程度で推移している。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集担当）	・アルバイトやパート等、夏季の臨時的求人の動きがない。特に百貨店やスーパー等、中元期の販売員、配送員の募集に関する手配が遅い。
		職業安定所（職員）	・求人数の急な増加は見込めない。採用について、様子見の状態にある企業も多い。
		学校〔専門学校〕（教務担当）	・現在の内定学生人数は、前年同時期の50%となっている。前年のこの時期に内定をもらった学生より、はるかに優秀な学生でも内定をもらえない。そのような学生が何人もいる。
	悪くなる		

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	商店街（代表者）	・景気は底を打っている。明るい兆しを感じられる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・社会実験とはいえ、高速道路料金の一部無料化は観光客数の増加に貢献し、活気は増す。ただし、駐車場不足に追い打ちをかけ、慢性的な交通渋滞も避けられない。
	やや良くなる	一般小売店〔薬局〕（経営者）	・当地方の景気はどん底にあるが、お買得価格のスーパーや100円ショップなどでは活況である。セールをすれば来客はあり、常に何かをしていけば、客に来店してもらえる。一層の努力によって、景気は上向く。
		百貨店（販売担当）	・景気が低迷している時は、客は値段の安さで商品を選ぶ傾向が強かった。最近では、季節感や自分のライフスタイルに合うものを選ぶ傾向が強くなってきている。商品を選択する基準が安さでなくなってくれば、秋冬の新作展開時の反応にも期待が持てる。
		スーパー（経営者）	・現状が悪いなか、夏物商材は若干売れているため、今後は良くなる。
		スーパー（総務担当）	・中元の食料品の売上が前年同月比3%増加しており、今後は良くなる。
		コンビニ（店長）	・猛暑が予想され、飲料の売上増が見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・安い商品ばかりではなく、インスタントコーヒーメーカー等の価値ある高価格帯の商品も徐々に売れる傾向にあるため、今後は良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・9月までは、エコカー減税や購入補助金で客の動きは活発になる。
		乗用車販売店（従業員）	・底打ち感があり、今後は少し良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		乗用車販売店（従業員）	・9月のエコカー購入補助金制度の終了に向けて、客の動きは活発になってくる。補助金制度が再延長されるのではないかと、直前まで購入を見合わせている客もあるため、8月ごろからの駆け込み受注が見込まれるが、人気車種に関しては納車が9月に間に合うかどうか楽観できない。
		一般レストラン（従業員）	・サッカーワールドカップが終われば、客も通常の生活リズムに戻り、来店する。
		旅行代理店（経営者）	・夏休みの旅行商戦では、来客数は増える見込みである。
		テーマパーク（経営企画担当）	・昨年は新型インフルエンザや梅雨明けが遅いなど天候不順があったが、今夏の宿泊予約は順調に入ってきている。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・イベントが成功したため、今後はその効果がある。
		商店街（代表者）	・来客数は商品構成にも影響されるが、現在のところ、新商品に対する反応もあまり良くない。宣伝の仕方にも問題はあがあるが、今後も来客数をプラスにすることは容易ではない。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・口蹄疫の風評被害を心配していたが、これまでのところ、中元商戦への影響もあまりないため、今後も前年並みの売上を確保できそうである。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	・4月ごろまでは、ある程度の景気回復が感じられたが、ここへきて売上、来客数共に伸び悩んでいる。それに加えて、中元が不振であるため、この先も厳しい状況が続く。
		百貨店（企画担当）	・回復傾向にはあるものの、今後しばらくは一進一退で、緩やかに推移する。ただし、景気は底を打っているため、二番底になる兆候は見られない。適当な立地と食品を始めとする多様な集客手段がある百貨店では、顧客ニーズを大きく捉え損なうことがなければ、一定の業績は維持できる。
		百貨店（売場主任）	・客は、中元ギフトの送付先を見極めている。先方から届いてから送るといように、今回は保留にして送付先件数を減らすという動きも見られる。財布のひもは相変わらず固いため、今後も厳しい状態が続く。
		百貨店（企画担当）	・客の購買意欲は良くなったり悪くなったりであり、一気に回復しているとは言い難い。売上は、当面一進一退を繰り返す。
		百貨店（企画担当）	・6月に入って客単価は前年近くにまで回復してきており、買上率も以前と比べて回復しつつある。しかし、来客数はここにきて前年を大きく下回るようになり、売上も前年同月を下回る状況が続いている。今後も引き続き、厳しい状態が続く。
		百貨店（経理担当）	・食品に関しては前年並みであるが、その他に関しては全体的に不調になる。
		百貨店（販売担当）	・高額品やファッション性がある商品を購入する客に関しては、動きは安定していく。しかし、季節商品や実需品を購入する大多数の客の動きの改善までには、至らない可能性が高い。その一番の理由として、将来に対する様々な不安に改善の兆しが見えないことが挙げられる。
		百貨店（販売担当）	・今は、これまでの節約疲れによって消費が一時的に盛り上がっているだけと感じる。景気が劇的に良くなる要因は見られない。とりあえず前年よりはましという程度である。
		スーパー（店長）	・消費税が増税される気配があるなか、生活防衛として節約志向は変わらず、まだ良くない。
		スーパー（店長）	・今後大きく変わる要素は見えない。値上げ等もないため、現状のままである。
		スーパー（店長）	・中元商戦がスタートしたが、購入は割引セール等に集中しており、単価を一層押し下げている。また、価格帯も低価格帯の購入比率が高い。精肉では、牛肉より豚肉や鶏肉の構成比が高まっている。節約、ヘルシー志向は、今後も一層高まる。
		スーパー（店員）	・余分な消費をしない傾向は、今後も続く。
		コンビニ（企画担当）	・思った以上に改善してきていない。地元の主要産業である自動車産業が、全体として雇用の拡大、改善に至っていないためと思われる。今後も国内生産を拡大させる見込みはなさそうであり、代替産業や新産業も見られない。
コンビニ（エリア担当）	・必需品以外を購入しない傾向は、今後も継続する。		
コンビニ（商品開発担当）	・ここ数か月間は、下げ止まったままほとんど変わっていない。しばらくは現状並みで、変わらない。		
衣料品専門店（経営者）	・今年も残暑が厳しいと聞いており、客は季節を先取りして購入することを控える。そのため、秋物の販売時期はずれ込む。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(経理担当)	・消費は徐々に持ち直していくと思われるが、改善しない雇用情勢や増税等が足を引っ張る。
		家電量販店(店員)	・エアコンが売れ出したが、前年並みである。今夏は、前年並みに落ち着きそうである。
		乗用車販売店(従業員)	・9月までは、エコカーへの補助金制度の効果で、現状並みの販売量が続く。
		住関連専門店(営業担当)	・公共工事、分譲住宅、持家、一戸建住宅共に、横ばいの見込みである。増える見込みがあるのはアミューズメント関係の店舗のみであり、業界全体で厳しい状態が続く。
		一般レストラン(スタッフ)	・7月のボーナス支給に期待したいが、あまり期待できない。
		一般レストラン(スタッフ)	・客の消費傾向からすぐには景気回復は見込めないと思われる。
		都市型ホテル(従業員)	・予約件数の状況を見ると、今後も変わらない。
		旅行代理店(経営者)	・デフレが続けば続くほど、企業の体力勝負となる。人や物が動いても、利益は出ない状況が続いている。財布のひもはますます固くなっている。サービス産業にとって、今後良くなるとは言えない、不安な状態にある。
		旅行代理店(経営者)	・当社や同業他社では、売上不振のため色々な方策を打ち出している。しかし、売上回復の糸口は見つけれられていない。今後も、この状況は変わらない。
		旅行代理店(経営者)	・少子高齢化によって、日本の旅行人口は減少傾向にある。それに伴い、需要も横ばい、または徐々に減少していく。
		旅行代理店(従業員)	・今年のボーナスは、周囲の企業では前年と比べて回復傾向にある。ただし、冷夏になるとの長期予報は、不安要素である。
		旅行代理店(従業員)	・新型インフルエンザ等によるキャンセル、変更が続いた前年と比べれば、秋の団体旅行は増えている。しかし、前々年の同時期と比較すると、特に良くなっていることはない。今年は、宿泊団体客が非常に少なく、日帰りの団体客が多くなっている。お金をかけない旅行が主流になっており、売上、収入は伸びない。
		タクシー運転手	・今月は梅雨のため、タクシー利用客が増加し、特に通勤時に増えている。しかし、これは一過性のもので、今後気候が変われば元に戻る。
		通信会社(サービス担当)	・客を引き付けるサービスや、提供エリアの拡大等がない限り、今後も現状と変わらない。
		通信会社(営業担当)	・今後、提供エリアは徐々に増えるが、まだ年数は掛かる。
		ゴルフ場(企画担当)	・2~3か月先の予約数は、前年並みに入っている。今後は、梅雨から夏にかけての天候にもよるが、今の若干悪い状態のまま推移する。
		美容室(経営者)	・少しずつ上向きになっている。しかし、全体的に余分な消費をしない傾向は今後も続く。
		住宅販売会社(従業員)	・消費税の増税が実施されれば、駆け込み受注が増える。しかし、その後には大きな変化はない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[室内装飾業](経営者)	・大型物件の見積依頼もなく、今後も現状並みが続く。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・家電、特にテレビ、冷蔵庫、エアコンのエコポイント効果も一巡しており、今後は販売量は減少する。また、特にテレビの単価の下落が激しく、売れ筋商品の品切れも続出しているため、販売増加は見込めない。
		一般小売店[贈答品](経営者)	・企業の広告宣伝費、交際費も、家計の交際費もが増えていない。何かを節約しようとする、交際費が削られる傾向がある。自分向けの消費はしても、付き合いには消費を控えるという余裕がない方向に向かっている。
		百貨店(外商担当)	・選挙を控えているため、7月は特に中元を始めとして苦戦を強いられる。
		スーパー(経営者)	・食料品があまり売れないためか、大型店では、商店街では考えられないような低価格が出されている。業界はますます大変になる。
		コンビニ(経営者)	・例年ならば6月15日以降に中元の注文が入るが、今年はこれまで全く注文がない。中元は年々減少しているが、今年は特にひどく、今後は一段と厳しくなる。
		コンビニ(エリア担当)	・来客数、客単価共に、悪いまま変わっていない。良くなる兆候がないため、しばらくこのまま推移する。相変わらず競合店の出店予定があり、近隣の店舗ではより厳しくなる。
		コンビニ(店長)	・処分価格品や100円均一商品しか購入しない客が増加しており、消費は冷え込んでいる。今後は一段と厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		家電量販店（店員）	・大手製造業関係は持ち直している間聞くが、消費面では節約傾向が続いている。自動車やテレビなどでは、エコポイント制度の効果はあるものの、焼け石に水である。それ以外については節約しており、今後は一段と厳しくなる。		
		乗用車販売店（営業担当）	・給料が減っている客が多いため、今後は一段と厳しくなる。		
		乗用車販売店（従業員）	・自動車販売は6、7月にピークを迎え、8月には手持ちの車両の販売になり客の選択肢は限られてくるため、購買意欲は下がってくる。店頭での活気も、薄れがちになってしまう。客と会話するなかで、将来の生活に対する不安を口にしている人も多い。身の丈に合った自動車を提案することにより、補助金制度をうまく利用した乗換えを勧めて、客に喜んで頂けるよう努力したい。		
		高級レストラン（スタッフ）	・春先は来客数が回復する兆候が見られたが、最近になって再び悪化し始めている。雇用環境の改善が遅れていることが影響している。今後は一段と厳しくなる。		
		一般レストラン（経営者）	・客との会話のなかで、少しでも明るい話題があれば良くなると思うが、全くその気配はない。		
		観光型ホテル（経営者）	・景気をけん引するような情報や事業の上向き傾向は、地域を見渡しても見当たらない。今年の大きなイベントは平城遷都1300年祭くらいで、当県には話題がないが、地域に根差した良さをアピールし、需要を喚起するしかない。		
		観光型ホテル（販売担当）	・2～3か月先の受注状況が悪く、回復の兆しは見えない。また、その悪さの原因も把握できていない。		
		都市型ホテル（経営者）	・来客数、単価等は、まだ安定しているとは言いがたい。今後は悪くなると考えたほうが妥当である。		
		都市型ホテル（支配人）	・3、4月には持ち直してきたと思われた出張需要も、6月以降は芳しくない。企業を訪問しても値下げ依頼が多く、今後は一段と厳しくなる。		
		旅行代理店（経営者）	・7月の参議院選挙と消費税の問題で、景気はやや悪くなる。		
		理美容室（経営者）	・客の話によると、給料が減るため消費を控えているとのことであり、今後は一段と厳しくなる。		
		設計事務所（経営者）	・今後の実施設計につながる計画案件は、少なくなっている。さらに、新築設計以外の改装設計や品質確認関連業務も、減少している。		
		住宅販売会社（従業員）	・今後景気が回復する材料は見当たらない。消費税の増税が具体化してくると、徐々に駆け込み需要が増えてくると思われるが、経済効果が高い政策は望めそうにない。		
		悪くなる		百貨店（外商担当）	・他店の閉店セールが8月末まで続くため、その影響がある。
				乗用車販売店（従業員）	・新車販売は9月でエコカー補助金制度が終了するため、かなり厳しくなる。
乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金制度が終了するため、この先は厳しくなる。				
その他専門店〔貴金属〕（店長）	・来客数、客単価共に、前年を大きく下回っている。今後、業界の景気はますます悪くなる。非常に危機感がある。				
住宅販売会社（従業員）	・平成元年の消費税導入時には駆け込み需要があったが、先行きが見えない今は、住宅建設への意欲は見られず、さらに消費税増税になると手が届かなくなる。そのため、結局住宅の新築は先延ばしするという客がある。				
企業動向関連	良くなる やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・取引先への販売価格は、依然として低価格が続いている。しかし販売数量は、徐々にではあるものの、増加傾向にある。個人消費は、少しずつ回復している。		
		輸送業（エリア担当）	・東南アジアや中国では活発な産業活動が見られるため、今後はやや良くなる。		
	変わらない	金融業（企画担当）	・受注量には、回復の兆しが見られる。今後は損益分岐点を超えてきて、現状よりはやや良くなる。		
		窯業・土石製品製造業（社員）	・注文に対して生産が追いつかず、在庫は減る一方である。しばらくは好調が続くようである。		
		金属製品製造業（従業員）	・同業他社でも、今年度は仕事量が少ないという声が多い。今後も現状並みが続く。		
		一般機械器具製造業（営業担当）	・北米やアジアの自動車産業では、設備投資意欲がおう盛である。しかし、円高が続いており価格競争力が低下しているため、引き合いは多くても、なかなか受注できないか、非常に厳しい価格での受注が続いている。今後も、現状が続く。		
		一般機械器具製造業（経理担当）	・景気は上向きにあると耳にするが、設備関係では修理のみであり、新規の設備投資は今後もない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（営業担当）	・既存案件は、今後も堅調に推移する見通しである。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・欧州の景気や為替が不安定であり、景気にどのような影響が出るかわからない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の話によると、秋頃までさほど変動がないとのことである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先では、引き続き厳しい在庫管理に伴い短い納期で発注する企業と、在庫を微増させている企業とが、混在し始めている。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・取引先によると、今期の生産数量が来年3月まで続くとのことである。
		輸送業（エリア担当）	・主要荷主等の話によると、6月も低調が続いており荷動きも緩慢で、今後良くなるという話は聞こえてこない。
		輸送業（エリア担当）	・発送個数は順調に増加しているが、単価が大幅に下落している。個数の増加によって経費も増加しているため、採算に関しては今後も楽観できない。
		金融業（従業員）	・以前と比べれば生産量等は増えており、仕事は多少ある状況にある。しかし、これは一時的であり、先行きは不透明で不安であることには変わりはないと話す取引先が多い。
		不動産業（経営者）	・客はもう一段の価格低下があると予想しており、今後も様子見は続く。
		広告代理店（制作担当）	・夏に向けての新規企画提案等に対しても、あまり良い返事はもらえず、売上はかなり厳しい状態が続くそうである。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込広告の回復は望めず、減少したままの状態が今後も続く。
		行政書士	・顧問先運送業者の3月期決算では、売上が軒並み減少している。今後も、厳しい状態が続く。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・業界全体が、沈滞している。問い合わせは多少あっても、受注にはなかなか結び付かない。今後も、厳しい状態が続く。
やや悪くなる		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・製造数が減少しつつあるため、主要取引先からのコストダウン要求が強くなる可能性が高い。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・今後は、受注量、販売量共に3～6%減少する。
		印刷業（営業担当）	・低価格競争が進み、客の取り合いになっている。同業者が廃業する話も耳にするが、今後もこの状態は続く。
		化学工業（人事担当）	・これまでは回復基調にあったが、ユーロ問題、米国の景気回復の鈍化、円高等々があり、不透明感がまた増している。年内の景気回復は期待できない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量の落込みが急激に回復することは、あまり期待できない。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・受注量の変化をみると、今後はやや悪くなる。
		輸送業（経営者）	・8月以降の生産計画を、下方修正している客が目立つ。
		輸送業（従業員）	・当社は日用雑貨の荷物を中心に取扱っているが、一般の消費の停滞が見られる。さらに、原油価格が高止まりし、トラックの主燃料である軽油やフェリー料金が高騰しているため、経営を圧迫している。それに加えて、今後工業原料が値上がりすると、企業は製品価格の高騰を抑えるために、運賃の値下げを要求することが懸念される。
		輸送業（エリア担当）	・3、4月の荷物量は増えたが、5、6月の動きが良くない。今の段階でこれだけ下がると、上向く兆しは見えない。
		金融業（法人営業担当）	・これまで回復基調をたどってきた生産に、一服感がみられる。9月末までのエコカー補助金制度によって駆け込み需要が見込まれる自動車も、販売期限は7月がぎりぎりであり、その後の反動減は必至とみられる。
		会計事務所（職員）	・先行きの受注量が見込めない限り、安定を求めるため、まずは人件費を見直す企業が増えてくる。それによって再び、人員整理、賃金カットの調整が進む。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・上半期の営業活動によって、下半期の受注に結び付けるため、上半期は辛抱である。
		悪くなる	
鉄鋼業（経営者）	・先行きの需要減によって、中小企業では非常に厳しくなる。		
金属製品製造業（経営者）	・今後の受注価格は、一段と低下する。		
雇用	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・今後も、研究開発需要は増加するため、技術者派遣の需要も増加する。
		人材派遣会社（社員）	・生産部門では優秀な人材の採用を検討している企業が増加しており、今後はやや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新卒求人数は前年を更に下回っており、長期的な観点では悲観材料が多い。その一方で、このところは即戦力である中途採用の広告が増えてきており、若干良くなる。
		職業安定所（職員）	・製造業の求人数は、前年同月比10%ほどの増加で推移している。今後求人を出そうという企業も増加している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・客の業績が上向きであるため、求人数は少しずつ回復している。今後も、やや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・都心部では回復しつつあるが、地方ではほとんど回復していない状況が続いている。今後も求人数は少ない状態で変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・自動車製造業及び関連業界では、エコカー補助金終了後に対して慎重になっている。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・現在の需要は短期契約が中心であるため、先行きは不透明である。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・製造業系では、求人が出始めており、回復感は広がっている。しかし、力強さや継続感は乏しい。
		職業安定所（所長）	・今後2、3か月間は、求人数の増加は見込めない。
職業安定所（職員）		・求人数は若干増加しているものの、景気の不透明感はまだあり、先行きは見えない状況にある。このため、求職者数も、若干減少するか横ばいで推移する。	
職業安定所（職員）		・求人数、就職者数共に増えているが、その一方で新規求職者数も増えている。総合的に見ると、今後も変わらない。	
職業安定所（職員）		・求人数は増えているものの、正社員の求人がまだ多くない。先行きは変わらない。	
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人数はわずかながら前月を上回っているものの、内容を見ると、パートや契約社員の求人が多い。正社員求人の比率は上昇しておらず、雇用環境の改善を実感するまでにはまだ時間を要する。	
	職業安定所（職員）	・4、5月の新規求職者数は減少したが、その他の数字は横ばいである。今後に対する大きなプラス材料も見当たらないため、良くなる可能性は小さい。	
悪くなる	-	-	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向 関連	良くなる	-	-	
		やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・近隣の同業者の閉店などもあり、今後2～3か月は売上に期待が持てる。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・今月のいい傾向が商品に関しても、客の購買に関しても続くと思われる。	
		コンビニ（店長）	・消費税率の引き上げやたばこの値上げなど不確定要素で客の購入意欲が変化している。天候の良い日には来客が多く、よく売れる状況になってきたことは夏に向かって良い傾向である。	
		旅行代理店（従業員）	・予約状況からみて少し明るい感じがする。旅行は「気」の要素も大事である。	
		旅行代理店（従業員）	・各企業の販促予算執行の手控えが一旦終了し、広告・インセンティブなどの活動が再び活発化する傾向が、今抱えている見積案件に見え隠れしている。	
		通信会社（職員）	・地元の企業や金融機関の業績が回復しつつあり、全般的に弱含みながら安堵感が広がりつつあるように見え、取引深耕が緩やかに進む。	
		美容室（経営者）	・地元の商工会議所が10%のプレミアムを付けた商品券を発行し、その券を利用する客が引き続きでてくるであろう。	
		住宅販売会社（従業員）	・新築部門は横ばいか若干下回っている。一方でリフォームは住宅版エコポイントの活用が顕著になっており、受注が好調に推移すると思われる、総体で上昇傾向にある。	
	住宅販売会社（従業員）	・これから少しずつではあるが土地が動き、住宅建築の動きが予想される。		
変わらない	商店街（代表者）	・秋物の動きが不透明である。		
	商店街（代表者）	・6月末から一斉に夏のバーゲンが前倒しで始まっているが、夏物の商品量も少なく、売れたとしても7、8月は売る商品がないといったような状況になりそうな気配である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・市場環境はよくないものの、50～60代の年齢層の購買動向が価格だけではなく、品質も重視し、モチベーション需要の高まり傾向はしばらく続く。
		百貨店（営業担当）	・ファッション関連はデフレ傾向がまだまだ続くと思われる。必要以外のものは買わない反面、食や暮らし関連では、プチぜいたくや自分へのごほうびといった部分で明るい兆しが見える。
		百貨店（売場担当）	・夏物セールの盛り上がりが見られない。
		スーパー（店長）	・良くなる要素も悪くなる要素もない。客の買物動向は今まで以上に少しでもサービスの良い日、有利な日に集中する傾向が強まる。
		スーパー（店長）	・消費への刺激になる要因が不透明で、夏商戦で期待するボーナス需要も前年を割る状況にあり、実売にはつながりにくい。
		コンビニ（経営者）	・来客数、客単価ともに下げ止まっていない。また、近隣に競合店が進出してから1年も経過していないこともあって、業況が回復することは見込めない。
		コンビニ（経営者）	・少しずつ回復してきた売上前年比であるが、前年比95%が大きな壁となっており、なかなか超えることができない状況になっている。
		コンビニ（店舗管理）	・価格訴求商品の高い支持が続いており、高額品の動きは鈍いままである。
		衣料品専門店（経営者）	・毎日一喜一憂している状況で、全体の方向性が定まらず、悪戦苦闘している。
		衣料品専門店（総括）	・参議院選挙の結果で、秋からの景気の動向が変化する可能性がある。
		家電量販店（経営者）	・サッカーワールドカップの影響も販促にはあまり効果なく、このあとビッグイベントもなく期待は薄い。
		家電量販店（店長）	・エコポイントが今年いっぱい終了となり、今夏エアコンが動く予想していたが、思っていたより動きが鈍い状況である。
		家電量販店（店長）	・天気次第で季節商品のエアコンに期待はあるが、大幅に増加する見込みはなさそうである。また商品全体に単価下落の傾向がみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・景気回復につれて需要がでてきたが、業種、地区、価格帯によっては格差が大きい。サラリーマン層はまだまだ時間がかかりそうである。
		乗用車販売店（経営者）	・新車購入補助金の期限内は継続する。
		乗用車販売店（経理担当）	・9月までは、販売は現況の通り比較的良好に推移していくが、受注は次第に厳しくなってくる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・現状もやや悪い方だが、このまま少しずつではあるが悪くなっていく。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・参議院選挙が終わり、良い兆しが出てくればと期待しているが、全く期待できない状況は現在と変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・景気回復により利用が戻ってきたのは電力会社と一部の輸出関連企業である。また事業仕分けによる組合や協会の利用も減少している。
		スナック（経営者）	・末端がますます悪い方向への気配もあるが、このまま低空飛行が続くと思われる。
		観光型旅館（経営者）	・夏休みの予約も例年より遅く、宿泊料金の安価な商品しか売れていない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・7月の参議院選挙の関係か、宴会の動きが弱く全体でも売上高は前年を下回る見通しとなっている。
		タクシー運転手	・タクシーの供給過剰地域に指定されているが、台数削減が進んでいない。利用者が増えない状況で厳しい状態が続く。
		タクシー運転手	・給料のアップについて客からは聞こえてこず、先行き厳しいままである。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発売が開始されたが、客の関心が非常に薄い。来客数、問い合わせ件数などは増加する事もなく、新規契約数は前年比横ばいで推移している。
		通信会社（役員）	・平成23年7月の地上アナログ放送の終了まで、残り1年を切ることがマスコミなどで取り上げられる機会が増える予想され、これに併せてケーブルテレビへの一層の加入促進を期待している。
		通信会社（営業担当）	・新商品が全て出そうなか、客の選択幅が大きく広がるため現在よりは販売力が下がるようには思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・来客数の動きは、前年が新型インフルエンザなどの要因で鈍かった分、今年はやや回復の兆しが期待されるものの、客単価については低下傾向が強く、全体としては相殺されてしまい、現状と変わらない動きとなりそうである。
		住宅販売会社（経営者）	・見込み客の来社数や問い合わせ数は順調である。
		住宅販売会社（従業員）	・現在の客層は属性の良い人がほとんどであり、一般的な方の動きはあまり無い。また、優遇税制や住宅版エコポイントの効果も徐々に薄れるため、これから良くなるとは思えない。
	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・参議院選挙の影響を受けて、景気対策の遅れが心配である。取引先のユーザー企業でも投資計画が立てられず、様子見の状況である。
		スーパー（総務担当）	・一部の製造業では受注が増加しているようだが、地域の中小企業の業績が振るわないため、ボーナス商戦も盛り上がりを見せないと予想される。
		自動車備品販売店（従業員）	・新車減税終了、高速道路1000円の動向など良い方向になる要素が何も見当たらない。
		住関連専門店（店長）	・これ以上悪くなって欲しくはないが、良くなる傾向が見えてこない。
		一般レストラン（スタッフ）	・消費税の動向、欧州の財政危機など景気の先行きが見えず、どこの会社も経費については厳しくなっている。出張費、接待交際費などの制限や社宅廃止などの話も聞いている。個人も同様、ファストファッションに象徴されるように、安く楽しむ風潮が外食にも広がっており、厳しい状況が続くと思われる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は10日現在では6、7月は前年比18%増、8月以降は同80%～70%となっていたが、20日現在では6月のみ18%増、7月は96%と前年割れ、8月以降は10日と比べてマイナス幅が縮まっている。先行きが不透明になりつつある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は弱く、天候次第である。
	悪くなる	競輪場（職員）	・全体的な販売額が下がり傾向である。
		百貨店（営業担当）	・婦人ファッション関連では、春夏物のセールの前倒しが進んでおり、このままでは、8、9月に秋物が動かず、春夏物のセールの延長状況が続く。6月末では客の買物態度の渋さが目立ち、7、8月はますます厳しくなると予想される。
	企業動向関連	良くなる	-
やや良くなる		電気機械器具製造業（経理担当）	・このところアジア諸国に負けていた新製品についても、国内のユーザーが新たなものを開発する傾向が強くなり、新規製品の受注が順調に伸びている。
		通信業（営業担当）	・市場はまだまだ厳しいが、徐々に受注量が増えている。
		不動産業（経営者）	・個人向け取引は少しずつ良い動きが出てきている。法人取引は一部ではあるが良い話が聞かれるようになってきた。
変わらない		食料品製造業（企画担当）	・原料価格がすでに上がっており、販売量が現状のままであっても、このままの推移では原価アップにて収益性が悪化していくものと推察される。
		繊維工業（経営者）	・受注面では底固さがあるものの、円高やユーロ安など、輸出商品での影響が懸念される。また、デフレの影響も含め、単価の見直しも懸念材料である。
		繊維工業（経営者）	・国内外の景況が不安定であるため、先行き不透明である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・今のところ、3か月先、6か月先に住宅市場が回復することは考えられず、1年から3年程度かかるとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注は現状と変わりがない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・全体的にはやや上向きつつあるが、輸出が多いメーカーにとって円高ユーロ安、鋼材の値上げなど収益圧迫要因がある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・1ドル90円前後で推移しており、海外の依存度が高い当社にとって海外からの受注が伸びない大きな原因である。95円まで戻ることを期待している。
		精密機械器具製造業（経営者）	・月別に多少の受注量の増減はあるが、また売れる商品・売れない商品がより明確に分かれる状況ではあるが、総量としてはほぼ同レベルの生産が続く予定である。
		輸送業（配車担当）	・原油等の高騰により、輸送コストの負担が大きくなり、今後急に景気が良くなると思われない。
金融業（融資担当）	・一部では改善の動きがみられるが、波は今後ともあるものと思われ、現状維持が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・為替相場が再び円高に向かい、株価も頭打ちの状況にあり、業績の先行きが懸念される。さらに消費税の議論が深まり、消費動向に与える影響が見定められず、強気にはなれない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・7月は参議院選挙公報及び月の日まわりでプラスの様相である。しかし、前年は8月に衆議院選挙があったため反動がある。
		税理士（所長）	・政府から発注される公共的納品や事業などは、金額自体が低い。入札制度などで安ければ良い風潮があり、デフレを助長している。安くなくても良いものを、人の価値を見出すような施策でないと個人の所得が増えない。また真のデフレ脱却は難しい。
	やや悪くなる	司法書士	・貸金業法改正の影響で、新規借入の困難さから一時は悪くなる。多重債務の問題が解決し、景気に良い影響がでるのにはしばらく時間がかかる。
	悪くなる	建設業（経営者）	・建設会社への銀行の融資姿勢がますます厳しさを増しており、これからはわずかの債務で簡単に倒産する会社が更に増えるであろう。景気回復といわれているが、建設業界は無縁である。
		建設業（総務担当）	・低価格による受注競争に大手業者まで加わり、ますますエスカレートしており、状況は悪化見込みである。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・各企業の景気が回復しない限り、派遣業界の回復は見込めない様子である。
		人材派遣会社（社員）	・ここ1年以上求人数の増加はなく先も見えてこない。当面この状況は続く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・積極的に人を採用しようという動きが出てこない。
		職業安定所（職員）	・労働者の毎月の平均賃金が依然として、前年を下回る状況が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、全体として前年同月比増加しているものの、サービス業など個人消費関連産業では依然として求人数は減少している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・仕事量の回復があっても、多数の企業は新たな従業員雇用にかなり慎重である。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・世界経済にはまだまだ不安があるものの、客の我慢が限界となって購入が増え始めているため、先行きはやや良くなる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・商店街の人通りが増えているため、当店の来客数も増える。
		百貨店（売場主任）	・全体的な状態が良くないため、大きな変化とはならないものの、これからリニューアル工事が進むにつれて環境面は良くなっていく。
		百貨店（売場主任）	・依然として前年の実績は下回っているものの、来客数、売上共に回復傾向となっており、価格一辺倒の購買動向に変化がみられる。
		スーパー（店長）	・食品中心に来客数や販売点数、1品単価が改善し、その噴水効果によって衣料品、住関連も堅調な売行きが維持できそうである。ただし、口蹄疫の影響で牛肉の購入意欲が低下気味であるほか、相場高とも重なって、牛肉の売上が前年比で15%程度悪化している点が懸念される。
		スーパー（店長）	・政治、経済の先行き不透明感はあるものの、子ども手当が支給されるほか、夏のボーナスも少し増えるため若干良くなる。
		スーパー（経理担当）	・他社の値下げ攻勢や百貨店のバーゲン前倒しなど、価格については厳しい環境が続くものの、ボーナスの増加や残業時間の増加、子ども手当の支給といった所得の増加要因もあり、消費が回復するかすかな兆しも出てきている。
		スーパー（社員）	・店舗によって差はあるが、売上の回復している店舗が増えている。子ども手当の支給や夏の賞与支給額が増える期待もあるため、きっかけさえあれば消費につながる実感がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ(店長)	・来客数が前年比で順調に伸びているため、先行きはやや良くなる。
		家電量販店(店長)	・テレビの2台目需要や、あまり普及の進んでいない録画機の需要が始まる。また、3DテレビやDVDの商品が各メーカーから発売され、新たなジャンルが確立されることで客単価の上昇も進む。
		一般レストラン(経営者)	・秋には近隣に分譲マンションができるため、人口の増加が来客数の増加につながる。
		一般レストラン(経理担当)	・夏のボーナスが数年ぶりに増える企業が多く、まだ安心はできないものの、回復の兆しが出てきている。
		その他飲食[ファーストフード](店員)	・子ども手当の支給によって少し良くなる。
		観光型ホテル(経営者)	・今後2～3か月に限れば、平城遷都1300年祭の記念事業が続くため、宿泊客の増加が続く。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊・宴会部門共に前年を上回る予約率で、直近の集客状況をみても期待できる動きとなっている。客単価は前年を下回って推移するものの、客の数はそれを補う増加となる。
		旅行代理店(広報担当)	・サッカーワールドカップでの盛り上がりや、夏の旅行の申込につながっている。また、上海万博も開催期間の後半になればメディアの報道も更に増えるため、旅行マインドが上昇する。
		タクシー運転手	・ボーナスの支給もあり、遊びに出掛ける客が増えている。これから暑い時期となるが、今年はタクシーの利用客が前年よりも多くなる。
		タクシー運転手	・参議院選挙に多少動きが出てくれば、世間も動き始める。
		通信会社(企画担当)	・アミューズメント業界に改善の兆しはないものの、家電や自動車の販売量が回復しているため、社会全体に波及効果が広がってくる。
		住宅販売会社(経営者)	・全体的な底上げが進めば、周囲でも回復が実感できるようになる。
	変わらない	商店街(代表者)	・前倒しで開催したバーゲン後に、売上の落ち込むことが懸念される。
		商店街(代表者)	・7月上旬までは現状維持の状態が続くものの、中旬以降は販売戦略次第で好転する。
		一般小売店[時計](経営者)	・周囲からは、お金を使って何かを買ったという話が全く聞かれないため、今後も厳しい状況が続く。若年層、年配といった年齢を問わず、今持っている物を工夫して長く使う傾向がある。これを表向きはエコと表現するが、結局は節約志向の表れであり、お金を使って買物する雰囲気がない。
		一般小売店[精肉](管理担当)	・口蹄疫の問題など、畜産関係者にとって非常に厳しい環境での中元戦線となる。経済状況も含めて先行きの予測が立たず、特に口蹄疫の問題はかなり長期にわたって影響が残る。
		一般小売店[野菜](店長)	・今後もまだまだ変わる気配がない。
		一般小売店[雑貨](店長)	・今後たばこの値上げがあれば売上は更に減少するが、それまでは今の低水準の状態が続く。
		一般小売店[酒](店員)	・まだまだ買い控えが続いており、百貨店などでのセールに出費が回るため、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店[コーヒー](営業担当)	・中元商戦での盛り返しを期待したいが、悪い状況のまま変わらない気配がある。
		一般小売店[菓子](営業担当)	・今後3か月で景気が良くなることはないため、新たな販路を開拓して売上増を図る。
		一般小売店[カメラ](販売担当)	・今の状態では先行きにも期待できないため、店のあり方も含め、色々と検討が必要である。
		百貨店(売場主任)	・今後も、少子高齢化の進行や客のたんす在庫の整理による消費の減少傾向は変わらない。外的要因が大きく変わらない限り、今のような厳しい状況が続く。
		百貨店(売場主任)	・参議院選挙の結果次第では、消費者の財布のひもは更に固くなる。
		百貨店(企画担当)	・バーゲン商戦の中心である婦人服の商品が少ないため、バーゲンの売上もあまり伸びない。
		百貨店(企画担当)	・今後も消費者の節約志向は当分続くため、特定の有名ブランドしか売上は伸びない。
		百貨店(営業担当)	・魅力のある新商品がなく、夏物衣料のバーゲン品を中心にした低価格商品の販売が中心になる。
		百貨店(婦人服担当)	・5月から若干の陰りが出てきており、今後の夏物セールについても厳しい状況となる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（サービス担当）	・今年夏物商材のクリアランスセールを前倒しする傾向が特に進んでおり、今後バーゲン期間が2～3か月の長期にわたって続く。また、サッカーワールドカップの放送が深夜に行われる影響で、夕方5時以降の売上が苦戦する。
		百貨店（店長）	・来月の参議院選挙後に政府が思い切った経済政策を行っても、小売業に影響が出てくるのは最後になるため、今年一杯は予断が許されない。
		百貨店（マネージャー）	・参議院選挙の結果にもよるが、経済政策が少し空回りするなど、政府が苦戦している状況もあるため、個人消費の回復はなかなか進まない。
		百貨店（売場担当）	・一部の海外ブランドを除き、まだまだ客単価や1品単価の低下に歯止めが掛かっておらず、今後2、3か月で前年実績をクリアするまでには至らない。
		スーパー（経営者）	・客は価格に非常に敏感で、手を出さず出さないかのラインがある。今後も、価格がそのラインを超えるかどうかで商品の売行きが大きく変わる。
		スーパー（経営者）	・大手企業では夏の賞与支給額が増加する一方、中小企業はその恩恵がまだまだ実感できない。穀物といった一部の食品原料の値下がりや、円高による輸入価格の低下が、価格上昇の障害となっている。
		スーパー（店長）	・周囲に店舗が多く、客の買い回りは続くため、食品以外を中心に厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・生活必需品のみが実需期に売れる傾向が続いている。低額商品を打ち出しても、客が必要としていなければ反応がないため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・地方都市の活性化策が見当たらず、今年の夏も今のままでは非常に厳しい状況となる。
		スーパー（企画担当）	・現状は売上の前年比が88%、来客数が92%程度で推移しており、今後も大きくは変わらない。
		スーパー（広報担当）	・一部では所得が改善する兆しもあるが、先行きの不透明感が根強く、消費者の節約志向は当分変わらない。同業他社との販促競争も更に激化するため、引き続き厳しい状況が続く。
		スーパー（販売担当）	・来客数は前年並みであるが、客単価が前年を下回る状況が続いているため、先行きの見通しは厳しい。
		スーパー（管理担当）	・消費の上向き材料が少ない。
		スーパー（企画）	・政治に対する不信感があるほか、景気回復に向けての施策も明示されていないため、今の状態がしばらくは続く。
		コンビニ（経営者）	・景気回復の見込みもなく、客の財布のひもは今後も固い状態が続く。最近では、果汁飲料を買う際もペットボトルではなく紙パックにするなど、出費を切り詰める動きがみられる。
		コンビニ（経営者）	・低価格の弁当の売上が伸びているが、その分客単価も若干下がっているため、今後も売上全体は横ばいで推移する。
		コンビニ（マネージャー）	・客は将来不安を抱えており、生活防衛意識が2、3か月で変化することはない。
		衣料品専門店（販売担当）	・今月も節約の話をする客が多いため、見通しとしては厳しい。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・ボーナス減少などの話をよく聞くほか、客の購買意欲も感じられないため、今後も厳しい状況となる。
		家電量販店（経営者）	・家電業界ではエコポイント制度や地上デジタル放送、オール電化、太陽光発電といった環境型商品への需要はあるものの、客の財布のひもは固い。買い換えサイクルも伸びているため、景気全体が良くなるまでは厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金も9月で期限を迎えるため、消費が低迷する。
		乗用車販売店（経営者）	・客の動きが以前よりも悪化しているため、先行きの見通しは厳しい。良くなっているのは製造業だけで、ほかの業種は回復が遅れている。
		乗用車販売店（経営者）	・参議院選挙の結果にもよるが、世界経済が二番底に陥る懸念が消えないため、消費者の間では買い控えが続く。それに伴って数か月は景気全体が低迷し、あまり大きな変化は起こらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・最近では忙しくなってきたが、単価が上がらないため、大きな変化とはならない。
		住関連専門店（店長）	・現状はまだ、必要に迫られて実用的な商品を購入する客が大半である。趣味性が高く、少し高価な商品が動き始めてこそ、ようやく利益につながり、景気回復も実感できる。
		住関連専門店（店員）	・値下げの効果が少なくなっている。客の購買意欲を高める新たな取組を行わなければ、変化は起こらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・参議院選挙の期間中は来客数が減少する。また今後の政局が株価にどう影響するかによって来客数が左右される。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・天候や環境などによほどの変化がない限り、前年並みの推移となる。
		その他専門店〔医薬品〕（店員）	・季節商品の入替えて各メーカーの新製品が増え、来客数は戻りつつある。ただし、客単価が低下しているため、今後も売上に大きな変化はない。
		一般レストラン（スタッフ）	・夏休みという大きなイベントが控えているが、今の傾向でいくと3か月先も順調な推移となる。
		スナック（経営者）	・客が大入りとなることは望めないが、常連客は間隔が空いてもそれなりに来店してくれるため、今後も堅調な推移となる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・子ども手当の支給が始まったものの、喫茶利用の増加にはつながりにくい。
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・周囲の店が閉店となった話をよく聞くほか、客足も遠のいているため、今後も厳しい状況となる。
		観光型旅館（団体役員）	・これから需要期の夏シーズンに向かうが、高速道路料金の無料化の問題などにより、客がほかの観光地へ流れてしまう懸念がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊では、低価格での受注を増やして売上のベースを作っているが、最終的な売上の予測が立たない。宴会も月ごとの受注が不安定で、前年並みに受注できるかどうか不透明である。
		都市型ホテル（マネージャー）	・夏休みから秋の行楽シーズンにかけて、宿泊部門は好調を維持できるものの、企業による宴会の予約状況は芳しくなく、レストランについても不透明な状況である。
		都市型ホテル（営業担当）	・前年の客室売上は新型インフルエンザの影響でかなり落ちたものの、今年は例年並みに戻っている。一方、一般宴会は参議院選挙の関係で動きが止まっており、回復の兆しが無い。
		旅行代理店（経営者）	・前年比では、前年の新型インフルエンザによる落ち込みがない分だけ伸びているが、2年前の水準には届いていない。特に、国内旅行は車を使った安い商品に流れやすく、インターネット予約の増加もあるため、今後も金額は伸びない。
		タクシー会社（経営者）	・公共交通機関を利用すればタクシーを使わなくても事が足りるほか、健康志向でウォーキングやサイクリングが流行しているため、今後も厳しい状況となる。緊急事態や天候の急な変化がない限り、タクシーの利用を控える習慣が定着している。
		通信会社（経営者）	・今後も目立った変化は起こらない。
		通信会社（経営者）	・携帯電話市場はスマートフォンのけん引で加熱しているように見えるが、特定のヒット商品以外は振るわず、有力な対抗機種もまだ見当たらない。
		通信会社（店長）	・特に先行きが明るくなる要因が見当たらない。
		観光名所（経理担当）	・来場者数を新型インフルエンザによる影響のない2年前と比較すると、年明けから春先までの間、ほぼ同じ水準で推移している。夏が近づくとつれて2年前を下回る日が増えているが、イベントや販促活動で何とか現状維持は可能である。
		観光名所（経理担当）	・前年は新型インフルエンザの影響で売上は悪化した。今年梅雨の割には月前半の天候が比較的良かったため、客の出足も良かった。月後半は天候が悪く客足も落ちたものの、恒例の中高生の団体やPTAグループが多数来たことで、売上は前年比で12%増となっている。ただし、前年の状況を考慮すればもっと上回る必要があるほか、客の買物状況をみても景気の回復している実感はないため、今後も厳しい状況が続く。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球の交流戦は終わったが、夏休み期間中に6試合が行われるほか、人気アイドルのコンサートも開催されるため、来場者数は増える。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・景気回復の兆しはあるが、我々の業界が実感するまでには時間が掛かる。参議院選挙の結果次第でもあり、消費税率の引上げは基本的にはマイナス要素であるが、現状でその影響がすぐに出るわけではない。
		美容室（経営者）	・これ以上は来客数も減らないが、暑くなってくると昼間の客が減少し、朝夕に集中することになる。集中する客にどれだけ対応できるかによって、結果が左右される。
		美容室（店員）	・客の需要を左右する決定的なメニュー展開については、きめ細かく行っているが、売上が大きく伸びることはない。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージでは服を脱ぐため、冬よりも夏の方が来客数は増えるが、今年は少なめであるため見通しは厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・深い水の中でもがいている感があり、明るい見通しは立たない。
		住宅販売会社（従業員）	・不安定な政局、欧州の経済動向といったマイナス材料が多く、回復の材料に乏しい。
		住宅販売会社（従業員）	・割安感のあるマンション、戸建住宅の売行きは好調であるが、立地の良い土地は価格が上昇傾向となってきた。販売価格への転嫁は難しいため、利益確保が難しくなる。
		住宅販売会社（総務担当）	・不動産市況に下げ止まり感がないため、住宅取得に関する贈与税の非課税枠拡大や、住宅版エコポイントによる現状維持が精一杯である。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・今後も金融機関の融資姿勢に左右される。
	やや悪くなる	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・消費税率の引上げを予感させる動きが増えるため、先行きは厳しくなる。
		百貨店（営業担当）	・店頭への来客数が伸びないほか、店での滞留時間も減少しているため、先行きの見通しは厳しい。目的の商品以外を購入する客が減っており、富裕層の固定客にもその傾向が出ている。
		コンビニ（店長）	・近隣に競合店のオープンが決まっているため、悪影響が出てくる。
		衣料品専門店（経営者）	・セールで売れていない以上、3か月後の定価販売の売行きも悪くなる。
		衣料品専門店（販売担当）	・ボーナスの削減といった声も聞かれるため、アパレル市場は厳しくなる。
		乗用車販売店（経営者）	・景気が上向くような好材料は特にない。中古車も売行きが悪いため値崩れが起きている。
		乗用車販売店（経営者）	・ハイブリッドカーの購入予約はあるが、高級車は売れず、トラックなどの販売も少ない。また、車検や修理の売上も上がらないため、先行きの見通しは厳しい。
		乗用車販売店（営業担当）	・政府による補助金制度が9月で終わるため、先行きは不透明で、見通しとしては非常に暗い。
		乗用車販売店（営業担当）	・所得の安定や増加の動きがないままでは、景気対策も一時的な効果に終わってしまう。9月に補助金の期限が切れた後、これまでの反動で更に落ち込むことは容易に想像がつく。
		一般レストラン（スタッフ）	・国の財政状況の悪化が報じられ、消費税率の引上げ論議が選挙の争点となっているため、消費が活発になることはない。
		観光型ホテル（経営者）	・生ビールフェアや夏の季節プラン、花火大会といったイベントで来客数は増えるものの、電気や水道、灯油などの使用量も増える。今後は灯油価格の値上がりが見込まれるほか、光熱費や建物管理の支払いも増えることで、やや苦しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・地域の同業者もインターネットで格安プランをどんどん出しており、際限のない値下げ競争の様相を呈している。宿泊単価は今後回復するどころか、ますます下がることは間違いない。
		競輪場（職員）	・近隣の同業者も売上がますます落ち込んでいる。例年夏は良くないため、先行きはやや悪くなる。
		競輪場（職員）	・地域経済全体を含めて好転する要素が見当たらないため、今のような状態で推移する。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタル価格の値下げ競争が終わらない限り、売上の減少傾向は進む。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産売買の成約率は横ばいであるが、住宅ローンの審査が厳しくなっている。売買契約後の住宅ローン不承認で解約となるケースが増加傾向にあり、今後もこの動きが続くと考えられるため、先行きの見通しは厳しい。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場への来場者の傾向をみると、低価格志向の来場者が増え、全体的に建築予算が減少傾向にある。政府の更なる景気刺激策がなければ、住宅需要の盛り上がりは長続きしない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・参議院選挙の結果にもよるが、政治経済の不安定な状況が加速する事態になれば、景気回復が後退する動きも出てくる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・参議院選挙の結果による影響もすぐには出ないため、夏商戦も厳しい状況となる。
		一般小売店〔花〕（店長）	・不安だらけであり、今後も状況は悪くなる一方である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔花〕(店員)	・客の間で節約志向が定着し、客単価が下がる一方であるなど、明るい兆しが無い。
		スーパー(経営者)	・政権、政策の先行き不安感や、エコポイント制度による効果の減少、雇用情勢の悪化などマイナスの要因が多い。
		衣料品専門店(経営者)	・秋冬商戦も値下げ競争が続き、デフレ傾向が激化する。
		観光型旅館(経営者)	・高速道路料金が無料化されると客の流れが変わる可能性がある。当地は高速道路から離れているため、不安定な状況となる。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業(経営者)	・売上の予定が立っている案件があるほか、数か月後には新しい事業も始まるため、先行きはやや良くなる。
		一般機械器具製造業(経営者)	・原子力発電関連は今後も活況を呈するため、設備投資の動きが活発となり、受注が増える。
		その他製造業〔履物〕(団体職員)	・人民元相場の柔軟化により、国内生産にシフトする動きが出てくる。
		建設業(経営者)	・不動産が動き出しているといった話があちこちで聞かれるため、これから少しずつ受注が増える。
		経営コンサルタント	・川上の製造業だけでなく、川下の中小小売業でも売上が回復している。前年を超える水準には至っていないものの、先行きはやや良くなる。
		コピーサービス業(従業員)	・内閣支持率が一時的に上がったほか、秋のたばこ増税前の駆け込み需要など、普段に比べると明るい材料がみられる。
	変わらない	繊維工業(団体職員)	・原材料価格の高騰分を販売価格へ転嫁できるかにかかっている。
		家具及び木材木製品製造業(営業担当)	・受注量に動きがないため、今後も大きくは変わらない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・客からは、生産増の計画や、今後良くなるといった声が聞かれない。
		化学工業(経営者)	・少し良くなってきたと思っても翌月が悪いなど、売上の回復も非常に不安定な状況が続いている。得意先からは、しばらくは良かったり悪かったりの状況が続くといった声も多い。
		化学工業(管理担当)	・参議院選挙の結果に左右されるが、いずれにしても景気回復には時間を要するほか、欧州各国の財政不安もなかなか解決しない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・不安定な政治による影響が経済に広がっており、消費者の間に必要な物だけを安く手に入れようとする生活防衛の姿勢が強まっている。一部の富裕層による消費だけでは、部分的に需要は増えても、回復につながるまでには程遠い。
		金属製品製造業(総務担当)	・民間の建築需要がまだまだ回復しておらず、相変わらず低迷しているため、今後も厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業(経営者)	・大手企業は市場の変化への対応がうまくってきたが、中小企業は取り残された感がある。やはり技術力がなければ、なかなか継続的な受注は厳しい。
		電気機械器具製造業(経営者)	・今の繁忙状態は3か月程度であれば続くものの、最先端の製品には需要が急に減少する怖さもある。新たな市場や顧客の開拓を進めているが、先行きの予測は立たない。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・鋼材関係で値上げ要求があるものの、値上げ分を製品価格には転嫁できないため、苦しい状況に変化はない。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・参議院選挙の結果がどうなるかによって大きく左右される。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・ボーナス支給額が少し増加する傾向にあるものの、住宅やマンションといった大きな買物にはあまり影響がない。しばらくは前年を少し上回る程度の動きが続く。
		電気機械器具製造業(宣伝担当)	・景気回復の材料があまり見当たらない。
		輸送業(営業所長)	・顧客はまだまだ物流経費の見直しを図っているため、値下げ要求の増加による利益の圧迫が続く。
		通信業(管理担当)	・景気の良くなる要素が見当たらない。
		金融業(支店長)	・設備の買換え需要が乏しく、メーカーの間では修理の需要が高まっている。企業が設備投資に資金を回せない状況は今後も続く。
		新聞販売店〔広告〕(店主)	・新規購読者を開拓しても、経済的な理由で購読を中止する人が増えており、全体的な購読者数は減少傾向にある。また、折込チラシも減少したままで伸びる要素がないため、厳しい状況が続く。
		広告代理店(営業担当)	・広告出稿が秋までに上向くような話は聞かれず、低位安定の状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（営業担当） 司法書士	・今後も広告費を積極的に使う企業がほとんどないため、先行きはかなり悲観的にとらえている。 ・今月は相談案件が多少あるという程度で、全体としてはあまり変化がないため、今後も現状維持となる。
		経営コンサルタント	・しばらくは現状維持の動きが続くなど、大きな変化の兆しはない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・受注量や引き合いも少なく、今後の見通しは不透明である。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・当面はこのような状況が続く一方、素材価格の高騰というコスト問題もある。中国の綿糸相場はこの半年で44%上昇しているなど、今年は利益の確保が最大のテーマとなる。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・企業の宣伝費に回復傾向がみられない。
		やや悪くなる	食料品製造業（従業員）
		繊維工業（総務担当）	・販売面での工夫が更に必要なため、販促品が増えるなど負担感が強まる。
		繊維工業（総務担当）	・靴下の販売状況は他業種ほど急激な落ち込みがなかったものの、徐々に減少する動きが続いている。年末までには回復して欲しいが、底打ちの時期がいつになるのか予測できない。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・新型多機能情報端末の人気製品が登場し、業界には新たな動きが出てきている。コンテンツの主流が、セールスによる製品説明や教育用になっていく懸念があり、より機能的な物を作らなければ販促物の減少をカバーできない。
		化学工業（企画担当）	・ロシアやアジアでの需要増により、欧州やオセアニアで乳原料価格が急騰している。それに伴って国内での販売価格も下げ止まったものの、投機筋による先物の売却で再び低下する可能性もあるため、先行きの予想は難しい。
		金属製品製造業（経営者）	・材料価格の値上げによるコスト上昇や、円高の進行により、国際競争力の低下が進む。
		輸送業（営業担当）	・月前半は鉄鋼、機械、建築関係の荷物がかなり少なく、衣料、食品関係もやや少なめであった。月後半は前年に近い動きとなったものの、全体としてはかなり悪かったため、先行きの見通しは暗い。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・周囲では景気が良くなる気配がない。
		悪くなる	金属製品製造業（営業担当）
不動産業（営業担当）			・当地域からのテナントの流出が止まらず、賃貸マンションや事務所も同じ状態となっているため、先行きの見通しは厳しい。
雇用 関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	人材派遣会社（支店長）
		職業安定所（職員）	・管内の中心業種である製造業で新規求人数が増加しているため、先行きはやや良くなる。
		職業安定所（職員）	・企業の先行きに対する不安が消えないため、正社員求人の動きは弱いものの、景気の回復傾向から求人数の増加は当分続く。雇用調整助成金などの支給額が縮小する動きもあるため、これが本格化すれば求人需要は更に増加する。
		民間職業紹介機関（支社長）	・大企業の求人も復活し、外需関連企業の求人意欲も高くなっている。国内の本格回復はまだ遅れているが、関西全体では求人数が増えているため、上半期中は上向き傾向で推移する。
		学校〔大学〕（就職担当）	・4月の求人企業数は前年比マイナス20%となっていたが、6月はマイナス幅が3%程度縮小している。求人意欲が少しずつ上がってきているため、先行きはやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・参議院選挙の結果といった不確定要素はあるものの、今後は少し上向いてくる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・企業からは採用を極力控えたいという意思が強く感じられ、当面はこういった状況が続く。
人材派遣会社（支店長）		・一部では採用増を検討している企業もあるが、多くの企業はいまだに余剰人員を抱えているため、状況に大きな変化はない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (管理担当)	・選挙を控えて各党が公約を発表しているが、消費税率引上げの議論がメインで、雇用対策が後回しになっている感がある。雇用の改善がなければ景気の実態は良くならない。
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・悪いなりに各社の経営状況が安定してきている。経営の方向性がみえてくれば、採用の強化が始まる。
		職業安定所(職員)	・新規求人数の増加傾向に鈍化の兆しがあるため、先行きは不透明である。新規求職者数の前年比もマイナス2.4%と減少傾向ではあるものの、依然として高止まりしている。
		職業安定所(職員)	・求人数は増加傾向であるが、正社員求人はまだ少ない。多いのはパート求人で、賃金も抑えられているため、消費の増加にはつながりにくい。
		職業安定所(職員)	・新規求職者が若干減少しているものの、パートでは中高年の求職者が増えるなど、就職をあきらめていた層が戻ってきた感もある。ただし、正社員の求人倍率は低く、すぐには改善が見込める状況ではない。
		民間職業紹介機関(職員)	・建設請負を中心に、どの事業所からも依然として上向く材料は聞かれない。
		民間職業紹介機関(大学担当)	・身の回りの景気回復はもう少し先になるものの、回復傾向にあることは間違いない。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・短期的に大きな変化は起こらない。
	やや悪くなる	人材派遣会社(経営者)	・ゴールデンウィーク前は9月まで今の状況が続き、10月からはペースが若干落ちるとみていたが、ここへきて既に7月から悪くなってきている。派遣そのものに対する逆風もあるが、企業の慎重な姿勢もあり、月後半から徐々に景気が悪くなっている。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・関西の中小企業には底打ち感も出てきているが、まだまだ復活といえる状況ではない。特に、新聞広告の回復時期は全く予想が立たない。
悪くなる	-	-	

8. 中国(地域別調査機関:(社)中国地方総合研究センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街(代表者)	・街への人出が増加しており、客の様子も大分落ち着いて、ゆったりと食事をしている。また、会話の内容も以前とは異なり、生活より身のまわりや旅行など楽しむような話題となっている。
		スーパー(開発担当)	・少しずつ気温が上がり、乳飲料の動きが良くなっている。野菜の単価も落ち着いてきており、動きも良いので期待がもてる。
		スーパー(管理担当)	・先月から売上が予算を上回ってきている。わずかな金額だが、この状態が維持できれば良くなる。
		スーパー(管理担当)	・全体的に足踏み状態の傾向であるが、6月に入り青果部門、海産部門で実績が前年を上回ってきており、右肩上がりでの推移の様子をみせている。
		衣料品専門店(地域ブロック長)	・来客数が引き続き戻ってきている状況で、新製品や新しい商品の打ち出しにより、単価の低下分をカバーすることが将来的には有効である。
		家電量販店(店長)	・昨年は冷夏の影響でエアコンが落ち込んだが今年は期待できる。消費者の省エネに対する意識が高まっており、単価の上昇も望める。テレビの需要はピークを過ぎた感があるが、引き続きエコポイント制度の効果が期待できる。
		乗用車販売店(統括)	・9月までは補助金等による効果が見込まれる。
		乗用車販売店(店長)	・6月は販売台数も安定して前年を上回る状態であり、来月も期待が持てる。
		乗用車販売店(企画担当)	・エコカー購入補助金の駆け込み需要が今しばらくは続く。
		乗用車販売店(営業担当)	・9月の補助金終了と消費税の増税に向けて、駆け込み購入が見込める。
		その他専門店〔海産物〕(支配人)	・団体客の動きが出てきている。
		一般レストラン(店長)	・ボーナス支給に伴う来客数の増加が際立っている。特に今年は注文単価は低いが、平日と休日共に来客数が増えているため夏季に向けて期待ができる。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕(支配人)	・今後、夏休みや高速道路一部無料化など良くなる要素がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル(スタッフ)	・夏休みに入ればファミリー客が増える。また、高速道路無料化が延期されたことも期待が持てる。
		観光型ホテル(支配人)	・8月までの宿泊予約は既に前年を上回っており、宴会予約も大型団体が入り好調に推移している。総じて個人旅行の需要が回復している。
		都市型ホテル(従業員)	・7、8月の宴会、宿泊の予約が前年に比べても増加している。
		都市型ホテル(スタッフ)	・昨年は新型インフルエンザによる全国大会などの催しがキャンセルになり、宿泊客数が伸びなかったが、この夏は無事に行なわれそうなので良くなる。
		タクシー運転手	・今は売上が低下し過ぎている状態なので、今後は元に戻る。
		タクシー運転手	・参議院選挙後の国の対策が一番の問題となる。今後瀬戸内芸術祭、全国文化祭等、数々の行事やイベントが予定されており、県外からの集客で売上の増加が期待できる。
		テーマパーク(業務担当)	・夏季イベント実施、高速道路無料化実験に伴う来園者の増加が見込まれる。
		テーマパーク(管理担当)	・入館者数が計画より増加しており、全体の観光客数も増加傾向にある。
		テーマパーク(広報担当)	・高速道路の一部無料化により観光客の動きが現在より更に活発になる。
		ゴルフ場(営業担当)	・ホテル関係ではビジネス関係の出張が回復しつつあるため、関東・関西からの来場を期待が持てる。昨年は7月の豪雨災害等で8、9月も集客に苦戦したが、今年が良い状態で推移している。ただ低価格競争は依然として進行している。
	競艇場(職員)	・7月の始め集客が見込めるレースがあり、8月も盆レースである程度の集客が見込める。	
	変わらない	商店街(代表者)	・土日、祝日の集客力の回復が極めて不透明である。
		商店街(理事)	・子ども手当も支給されたが、商店街にとってあまり良い影響は出ていない。また、今後良くなる材料も見当たらず、高速道路一部無料化についても、今後良い影響をもたらすという意識を皆持っておらず、生活防衛本能が働いている。
		一般小売店[紙類](経営者)	・これからも観光客の数は順調に増加するが、商圏の基本となる地元住民の、生活の買物等が減少することから、全体としては現状と変わらない。
		一般小売店[印章](営業担当)	・売上の低迷は続いているが、会社設立のための注文が少しずつ出てきており、今後に期待もてる。
		百貨店(営業担当)	・店舗にもよるが、客の購買意欲は戻りつつあるが、商品の単価が低下しており、購入点数は以前と同じでも売上が増加しないという状況である。売上を伸ばすには商品単価を上げる工夫が必要である。
		百貨店(電算担当)	・売上は前年比9%の減少である。客の消費意欲がみられず、全ての商品が厳しい。
		百貨店(販売担当)	・今後も「安いから買う」のではなく、「必要なときに必要なものだけを買う」という買い控え傾向は続く。
		スーパー(店長)	・今のところ良くなる材料も見当たらず、この状況が続く。
		スーパー(店長)	・客の低単価志向はここ1年以上続いており、今後も客単価の低迷は続く。商品の点数が増えることもなく、単価だけが低下した状態である。
スーパー(店長)		・当分の間、近隣の市場環境が大きく変化する要素も予定もなく、しばらくは今の状況が継続する。	
スーパー(店長)	・地域のボーナスの状況は今一つで、食品への支出は一層厳しくなる。		
スーパー(経営企画)	・依然として前年割れではあるが、来客数、客単価が少しずつ回復している。ただし、ディスカウント業態の競合店の開店、業態転換が続けて計画されており、当社としては厳しい状況が続く。		
コンビニ(エリア担当)	・近隣のスーパーマーケットや、ドラッグストア等へ行く客が相変わらず多く、来客数は前年を大きく下回っている。一時期の底は脱したがこの状況はまだ続く。		
コンビニ(エリア担当)	・9月ごろから取引先の増加という良い面はあるが、客入り悪化・商談の尻すぼみ等悪い面があり、全体としては更に厳しくなる。		
コンビニ(エリア担当)	・景気について特殊な要因がない限り大きな変化は生じない。		
コンビニ(営業担当)	・来客数は前年比を上回るが、客単価は依然として前年割れが継続する。		
衣料品専門店(地域ブロック長)	・今後も競争店との低価格競争が続くことから、全体の販売量は減少する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・長期天気予報では、今年は冷夏という予想であり、今後夏物衣料の動向が不安である。
		家電量販店(店長)	・今年いっぱいエコポイント制度により、テレビ、冷蔵庫、エアコン等大物家電の需要がある程度期待されるが、その他の商品が前年を下回り、全体としてはほぼ横ばいで推移する。
		家電量販店(店長)	・前年と比較しての来客数の推移や、自社及び競合他社を含むマーケット状況では上昇の様子がうかがえない。
		乗用車販売店(統括)	・参議院選挙の後が不透明であり、減税措置などが延長されなければ市場が活発化せず、仕事が減少することもある。
		乗用車販売店(サービス担当)	・政治、経済が安定するまでは良くならない。
		その他専門店[時計](経営者)	・消費を喚起するには、雇用が増加し、社会保障が将来に担保されるような政策がなされないと上向きにはならない。
		その他専門店[布地](経営者)	・国の景気対策が少しずつ実行に移されているが、今一つ客の買物が活発にならない。
		その他小売店[ショッピングセンター](営業担当)	・セール企画や新規オープンのお店が多くあるため、販売量は本年度の平均と比べて回復する。
		高級レストラン(スタッフ)	・ここ数か月先の予約状況には変化がない。
		その他飲食[ハンバーガー](経営者)	・客のニーズをつかんだ良い商品を出せるかがポイントになる。地方ではまだネットを使ったビジネスが浸透していない。eクーポンなど使用頻度を上げる努力が必要である。
		都市型ホテル(総支配人)	・7月、8月は大会などもあり、宿泊利用は前年並みを確保できる。宴会等の予約状況も7月中旬からはやや上向き傾向にある。
		都市型ホテル(支配人)	・消費者は金額に敏感であり、旅行会社から受注しようとするればこれまでの格付けによらない料金設定などを行って価格を抑えるしかなく、売上にも少なからず影響する。
		旅行代理店(経営者)	・参議院選挙が終わっても急に景気回復の見込みはない。
		通信会社(社員)	・通信サービスに対する新規の利用等の問い合わせに変動がない。
		通信会社(企画担当)	・地上デジタル化完全移行まで1年を切り、地上デジタル放送対応テレビの普及も更に進む。受像機の買換えは、映像・テレビやインターネットサービスの見直しにつながり、切替える良い機会になるため、当面、買換えからのサービス需要が続く。
		通信会社(通信事業担当)	・必要な物であっても最低限の費用しかかけない傾向は変わらず、特に良くなる要素は見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・個人消費低迷のなかで、大手通信事業者等との競合が厳しく、加入者数の大幅な回復は見込みにくい。
		通信会社(総務担当)	・販売数に増加がなく、今後需要の伸びが期待できない。
		通信会社(広報担当)	・参議院選挙結果や今後の政府の財政政策及び景気対策により、消費動向が上向くかどうかが決まるが、上昇するとしても時間がかかる。
		美容室(経営者)	・景気が良くなるきっかけもなく、周囲は半ばあきらめている状況であり、今後あまり良くはならない。
		美容室(経営者)	・客からは景気が上向いたとか収入が増えた様子も特にうかがえないので、現状のまま推移する。
		設計事務所(経営者)	・消費意識の改善がすぐには図れない。
		設計事務所(経営者)	・参議院選挙がはじまり、具体的な景気浮揚策が示されない上に、行財政改革の姿も見えないことから、しばらく先が見通せない。
		設計事務所(経営者)	・住宅版エコポイント制度も一服感があり、他に民間からの受注が増える要素が見当たらない。
		設計事務所(経営者)	・建築の景気が上向くような要素がみつからない。
		住宅販売会社(従業員)	・来客数、受注量は持ち直しているが、金額面は総額、単価共に低下している。
		住宅販売会社(販売担当)	・住宅版エコポイント制度が受注増につながらない。
		住宅販売会社(経理担当)	・参議院選挙の結果に対しても、国民の関心は低い。一方景気は更なる景気対策等を打ち出さないと良くならず、住宅の購買意欲も低下する。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・最近の客には閉塞感があり、政治の混迷が輪をかけている。選挙があるたびに景気が悪くなり、客の財布のひもが固くなっている。政治の迷走から、「今選挙どころではない」というのが一般的な感覚で、参議院選挙も消費を冷やす要因となっており、皆先行きを非常に不安がっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・給与所得者、生活者、商業関係者それぞれの収入が増える予想が将来にわたってたたないため、必需品以外の物については購買意欲が著しく低下している。
		一般小売店〔酒店〕（営業担当）	・地方が疲弊しているなか、消費税導入などのマイナス要因が参議院選挙の争点ともなっており、さらに景気を冷やす要因になっている。将来に対する不安が消費を押し下げている。
		百貨店（売場担当）	・中元ギフトやクリアランスセールの上立ちの動きが例年になく非常に悪く、7月には参議院選挙もあることから、苦戦が予想される。
		百貨店（購買担当）	・新たな景気対策的な施策もなく、近郊に大きなショッピングセンターが建設されており、客足の停滞が懸念される。その対応として、百貨店でも低価格の商品を用意して取り組んできたが、思うように売上にはつながっておらず、先行きは不安であり状況は不透明である。
		百貨店（売場担当）	・値ごろ感や利便性・品ぞろえの面で地域的な競争、業態の競争に勝っていくことが難しい状況にある。ますます地域的な勝負、業態の好不調の格差が顕著に広がる。
		スーパー（店長）	・梅雨が平年どおりに明け、夏らしい気候で猛暑になれば期待できるが、九州などで異常気象もあり期待できない。必要な物だけを底値で買う傾向は変わらない。
		スーパー（販売担当）	・車を利用する客は、多少遠くても単価の安い競合店でまとめ買いする傾向にあり、高齢者の来客数が少しずつ増加している。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は緩やかに改善していくが、客単価が低下していることから、今後の売上は現状維持か、今よりやや悪くなる。そのため、今後はレジのまわりに安価な商品を並べて客の関心を誘ったり、来店時に一声かけて商品サービスを行ったりして客単価を上げて行く。
		コンビニ（エリア担当）	・政治や経済の不安要素が大きく、客の節約志向は今後も続く。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・バーゲン時期には、来店客はまず値札を見て、少々の値下げでは買わない人が増えてくるため厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・補助金の期限である9月以降は、販売数量の落ち込みが必須と考えるが、どの程度の落ち込みになるのか心配している。参議院選挙や為替・株式の変動等、さまざまな要因もからんで戦々恐々としている。
		自動車備品販売店（経営者）	・夏商戦も過去のように盛り上がりせず、ボーナスの支給には期待するが、現在の客の様子からは期待しづらい。
		美容室（経営者）	・先が見えないような政治の状況になっているので、5月ごろから客の動きが急に冷え込んできており、年末には金が回らなくなるのではないかと心配している。
		悪くなる	
衣料品専門店（経営者）	・同業者の自己破産や完全閉店が3か月連続あり、売上も前年同月比で上回る兆しが無い。		
住関連専門店（広告企画担当）	・単価の低下と共に客の動きも少ない。		
一般レストラン（店長）	・来店頻度の減少が止まらない。		
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後2～3か月、メーカーの生産台数の伸びが見込める。
	やや良くなる	輸送業（統括）	・海運部門の内容が非常に良くなってきている。現在のところ、今年いっぱいには良い状況を見込んでおり、これにけん引されて他部門も良くなる。
		金融業（業界情報担当）	・ギリシャ財政危機など欧州経済の不安や、円高の進行など不透明さはあるが、中国など新興国での販売増加に加え、北米も緩やかながら回復すると期待でき、全体では回復が続く。
変わらない		食料品製造業（総務担当）	・自主商品の一部見直しを行った。昨年のもは売らず、新製品を売るが、商品が実際売れるのか不安である。
		化学工業（総務担当）	・景気対策が遅れ、内需不振が継続している。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・7月も6月並みの生産量を見込み、雇用調整の計画も継続の見込みである。ただ、高炉改修向けの大口受注が見込まれ、秋口からは生産量増加となる。
		鉄鋼業（総務担当）	・アジア向けなどを中心とした需要に支えられ、生産量は堅調に推移しているものの、原料価格が高騰している。鋼材価格への転嫁を図っているが、更なる価格高騰が懸念材料となっており、先行き不透明な状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		鉄鋼業（総務担当）	・円高による輸出への影響や原材料価格の上昇基調が懸念材料だが、自動車やエレクトロニクス産業の堅調がどこまで続くかが非常に重要である。	
		非鉄金属製造業（経理担当）	・輸出向けを除き、受注量に特段の変化は見られない。	
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量、販売量の厳しい状況が続く。	
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・自社製品の売上について、国内では少しずつ回復に向かっており増加しつつあるが、海外は引き続き伸びは見られず、当面厳しい状況が続く。	
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が現状水準で推移する。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	・参議院選挙を含め不安定要素が多い。	
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・主要顧客からは、現況維持との内示となっている。	
		建設業（経営者）	・土木、建築等建設関連は低下したままで推移しており、これから3か月先も改善は難しい。	
		建設業（経営者）	・他の産業の景気が上向いてしばらく経過しないと景気が良くなる。	
		金融業（営業担当）	・今まで業績不振にあえいでいた複数の企業において、売上が前年同月比でプラスに転換する動きが見えている。ただし、そのような経営者でも将来について、明るい展望を持っているわけではない。	
		会計事務所（職員）	・受注量は現在の水準より減少することはないと思われるが、材料費等が値上がりするような気配がある。利幅を維持するため厳しい情勢が続く。	
		コピーサービス業（管理担当）	・競合先が半値近い価格で見積をしてきて、失注が相次いでいる。赤字でも仕事がある方が金が回るという考え方であるが、怖いのはこの価格が標準価格になり、現状の取引に悪影響が及ぶことである。	
		やや悪くなる	食料品製造業（業務担当）	・年末の商談が始まるが、一部の取引先で昨年の数字をクリアするために内容量の増量、価格の据置きを要請される。しかも原材料は昨年に比べ価格が上昇しているため利益が圧迫される。
			金属製品製造業（総務担当）	・秋に鉄原材料価格が上昇する可能性がある。受注価格は4月以降既に下がっているため、その間に挟まれ、厳しい状況が更に厳しくなる。
悪くなる	農林水産業（従業者）	・海水温度が低く、今がシーズンのアジや真イカの水揚げが激減している。		
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・韓国から受注の2隻が凍結状態だったが、キャンセルと決まった。2013年以降受注も増えていない状態である。		
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・地方なので、まわりの企業も良いところは一つもなくどうしようもない。		
雇用関連	良くなる	-	-	
		やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・6月からの求人の傾向が少し良くなりつつあり、回復の兆しが出てきた。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・製造業からの派遣や紹介受注は増えてきているものの、人材派遣業を取り巻く環境は非常に厳しい。労働者派遣法の改正動向如何によっては、先行きが非常に不透明である。短期的な需要増を楽観視できない。	
		求人情報サイト運営（支店長）	・企業の投資意欲が高まってきており、新卒・中途採用ともに、若干ではあるが上向くと考えられる。	
		人材派遣会社（支社長）	・欧州の財政危機や参議院選挙で今後の国会運営が不透明なため、各企業とも採用や設備投資に関して様子見の状況となっている。	
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（支社長）	・少しずつ良くなっている傾向は変わらないが、安定してきている。	
		職業安定所（職員）	・新規求人の総数は増加傾向にあるが、臨時求人の割合が高く、求人提出時期の様子見など、企業の採用意欲はまだ充分とは言えず、本格的な求人増加にはなお時間がかかる。	
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・自動車関連で、上期はエコカー減税や補助金等の効果でかなりの求人の動きがあるが、施策の終了する下期には動きが見えない状況になっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	職業安定所（職員）	・産業別の求人は、製造業が少ない。また、すべての業種において先行き不透明感から雇用について意欲がない。唯一環境関連の業種は、上向きな話を聞く。

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・高速道路無料化実験で一昨日から高知・須崎間の高速道路が無料化された。少し足を伸ばして、須崎までおいしい魚を食べに行くという外食行動が増えるのではと期待している。
		スーパー（店長）	・夏物の動きが鈍かったが、それもここに来て上昇してきた。今後も景気の回復感があり、来客数の増加が見込めるため、売上上昇が見込める。その結果、全体の景気も押し上げていく。
		スーパー（店長）	・客単価が回復してきた。ボーナスや中元商戦に期待している。
		コンビニ（店長）	・安くないと売れない時期から脱しつつある。ただ、選別の目は更に厳しくなっている。買い控えているだけで買えないわけではない。価値を理解してもらえた物は売れている。
		衣料品専門店（経営者）	・7月はいよいよパーゲン月に入る。そしてボーナスも出そうするため、6月後半の動きをみる限り、7月もそこそこいいのではないかと期待している。
		家電量販店（店員）	・来店客の話によると、去年我慢していた家電の買換えを、夏以降、再度検討するという声が多い。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金制度の予算超過が予想されるため、駆け込み需要は7～8月がピークで、9月は落ち着くのではないかと思う。
		旅行代理店（支店長）	・現在国内旅行は低調に推移しているが、海外旅行の売上は好調である。また、子ども手当の支給による、夏休み家族旅行需要の増加と地元イベント「瀬戸内国際芸術祭」開催による旅行者の増加が期待できる。
		通信会社（支店長）	・景気は上向き傾向にあるが、販売量に大きく現れていない。
	通信会社（企画）	・サッカーワールドカップや高校野球など季節的な要因も影響するが、全体としては良くなっている。	
	競艇場（職員）	・今月の売上は減少したが、想定内の結果である。7月に開催予定のSGレースで少なからず好転するものと期待している。	
	変わらない	商店街（代表者）	・NHK大河ドラマの影響で、観光客の入込みがかなり好調である。しかし、消費税の上昇など、消費者の心理、消費者マインドを浮揚させるような環境にはまだ至っていない。
		商店街（代表者）	・参議院選挙の結果待ち状態であるため、今は何ともいえない。
		百貨店（営業担当）	・中元の予約は厳しい状況が続いており、まだまだ状況は変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・クリアランスセールの際にも必要なものだけを厳選して購入するという傾向が強い。
		スーパー（企画担当）	・選挙に対する期待は昨年の衆議院選挙ほどではなく、選挙後の消費に大きな影響は与えない。
		スーパー（財務担当）	・経済政策や福祉・年金政策の不透明感及びデフレの継続により、消費に対する高揚感が湧いてこない。供給過剰の状態がこのまま続けば、ますますデフレが進行して、雇用や賃金の悪循環を招く。
		コンビニ（総務）	・夏の猛暑や景気刺激による消費喚起などの特別な要因がない限り、景気が上向くとは考えられない。
		衣料品専門店（経営者）	・参議院選挙後、国の政策が分かるまで、消費者はじっと見守っている。
衣料品専門店（総務担当）		・景気は上向きになっていると報道されているが、実際に客の収入が増えているという話はまだ聞かない。エコポイントなどの補助がない衣料品小売業の景気が良くなるにはまだ時間がかかる。	
家電量販店（店長）		・今後3か月は、家電店は、夏の暑さという季節的要因に影響されるが、今の状況を見ると、ほとんど今と変わらない。	
家電量販店（営業担当）	・本格的なエアコン商戦を前に、まだ販売量は少なめである。梅雨が明ければ、平年並みに戻るだろう。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		乗用車販売店（従業員）	・9月にエコカー購入補助金制度は終了するが、駆け込み需要はあまり期待できない。9月までは現状が続くが、その後の落込みは想像出来ず、かなり不安感がある。		
		乗用車販売店（役員）	・エコカー購入補助金制度が終わってもエコカー減税が3月まで続くので受注や販売量は、現在の水準を維持していく。ただ、今より上向きになる可能性もある。		
		住関連専門店（経営者）	・販売量が更に減少している。		
		一般レストラン（経営者）	・夏のボーナスは、回復する企業もあるが、中小企業ではまだ厳しい状況にある。販売単価の安い店への客のシフトが更に進んでいく。		
		一般レストラン（経営者）	・高齢者の年金が十分余っているとか、会社の経費が十分あるとか、ボーナスが出たとか、株で儲けたというような話が多く出てこない、飲食業は良くならない。		
		観光型旅館（経営者）	・参議院選挙の結果、国の政策の行方に左右される。先行き不安がなくなれば、旅行やレジャーといった商品に金が回ると思うが、現在のところは、その見通しが立たない。現在の予約状況をみても、さほど良くない。		
		都市型ホテル（経営者）	・産業、景気が良くなるという特別の要因がないため、下の方を這っている状態が続く。		
		タクシー運転手	・景気の良い業種もあるが、地方では以前と同様で少し下がり気味の感じがする。		
		通信会社（管理担当）	・新しい通信機種や新サービスの導入が一旦収束する。		
		観光名所（職員）	・社会情勢がまだ安定しておらず、景気もまだ完全に復活したとはいえない。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・今後も、政局の不安定、競争激化と乱立状態、内需の低迷、少子高齢化による需要の停滞が続く。
				一般小売店〔乾物〕（店員）	・高速道路料金引下げがなくなると、売上は落ちると思う。
				百貨店（営業担当）	・前月同様に、来客数に改善傾向がみられた。しかし、売上高については前月以上に厳しくなっている。特に高額商品や紳士用品の動きが悪くなってきている。
				スーパー（統括担当）	・6月は、子ども手当や賞与の支給があったため、やや単価が上昇してきた。しかし、これは一時的なものであり、7月以降は元に戻る。
スーパー（人事）	・景気対策の政策実行を受けても変化が見られないことから、今後、次第に悪化する。				
乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が9月で終了することになるので、自動車販売が落ちてくる。				
タクシー運転手	・現状、街中でタクシーが増え、ますます競争が激しくなり、これ以上客が増える見込みがない。				
ゴルフ場（従業員）	・来場者の数も低調であるが、それにも増して予約状況が悪い。客単価も下落してきており、今後は更に厳しい状況になる。				
美容室（経営者）	・消費税率の引き上げの話が出てきており、一層節約志向になる可能性がある。				
設計事務所（所長）	・大型の建築物件が発注されるようになった。				
悪くなる				商店街（代表者）	・夏の賞与も期待できず、ますます消費者の生活防衛の意識が強まる。
		衣料品専門店（経営者）	・来店頻度は下がり、来店しても購入品数が減っているため、売上が低下している。		
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が9月で終了するため、新車販売市場は大幅に落ち込む。		
		設計事務所（職員）	・公共事業費は今後も削減され続けるであろうから、経営環境、就業環境はますます厳しくなる。建設業の事業所、就業者ともに支出、経費の削減に努めているため、消費動向は低調である。ボーナスが出ない事業所もあり、景気は更に冷え込む懸念がある。		
企業動向関連	良くなる やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・環境関連や太陽光設置は順調に受注を伸ばしている。電子化学工業の設備投資も旺盛であり、逐次、受注がある。		
		通信業（部長）	・更なるコスト削減を求めて商談件数が増加している。受注競争が厳しく、手放して喜べる状況にはないが、幾分かの販売量増加が期待できる。		
		通信業（営業担当）	・子ども手当など、政府の景気刺激施策の効果がでて、個人消費が今月より増加する。知人からも、夏の家族旅行計画の話や、例年より早くから聞いていることや、昨年より「遠く」「長く」行くという話を聞いた。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	不動産業（経営者）	・相変わらず厳しい状況が続いている。ただ、ここ最近では中央からの出店や土地探し、あるいは宅地探しのオファーがかなり来ている。
		農林水産業（総務担当）	・需要が活発化する要因がない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現在の家庭紙の市況は変わらないだろう。当社は、クリーナー関係の新商品が少しずつ伸びてきているため、その分野の売上を伸ばしていきたい。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・国内向けの受注が依然として厳しい。欧州、米国など海外向けの受注も大きく伸びる見込みが立たない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・財政赤字による全世界的な景気回復遅れのため、消費が選別される。
		建設業（経営者）	・企業努力はするが、業界内で明るい兆しもまだ見えない。
		輸送業（経営者）	・良い傾向は雰囲気的に少ない。業況の良し悪しが両極端の傾向に進む。
		広告代理店（経営者）	・資材価格についてはある程度安定しているようだが、利益率は依然低い水準のままとなっており、予断を許さない。
		広告代理店（経営者）	・地方の中小企業は依然として厳しい経営状況が続いている。特に長期消費低迷と県外からの出店攻勢で、広告主は体力が弱まっている。新規得意先からの広告の見積依頼もあるが、厳しい状況下での見積競争のため採算が合わないケースが多い。一部の得意先で新規出店広告が予定されているが、全体としては広告費削減傾向が続く。
		公認会計士	・経営者の方々に話を聞くと、まだまだ設備投資に消極的であるという意見が多い。しかし、売上には改善の兆しが見えている企業も点在している。そういうことから、景気が底を打ったと言える。ただ、各経営者が、回復に向かい始めたかと判断するまでには至っていない。
やや悪くなる		食料品製造業（従業員）	・業務用を中心に、販売数量の落ち込みがまだある。
		建設業（総務担当）	・鋼材をはじめ、資材関連の値上げが予想されるため、収益面は、今後ますます厳しくなる。
悪くなる		輸送業（支店長）	・原油価格の高騰、並びに工業製品・パルプ製品の生産調整が予想される。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・民間企業の中途採用のニーズは引き続き増加を見込んでいる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・採用について足踏みをしている企業も、今後、求人を出す可能性がある。
	変わらない	人材派遣会社（営業部長）	・採用者数が徐々に上向いてきているが、最悪期を脱したに過ぎない。本格的な回復は、年明け以降になる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・広告業界は、新規出店等の好材料もなく低水準のままである。地元企業で明るい話題を持つ企業も少ない。相変わらず、県外からの進出企業が客を集め、地元企業はじり貧の様相である。
	民間職業紹介機関（所長）	・賞与時期に入っているが、前年を下回るという企業が多く、とてもではないが、設備投資や従業員を増やそうという声はあまり聞かれない。	
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が、先月より0.04ポイント下回った。
		職業安定所（職員）	・製造業を中心とした雇用調整が、他産業へも波及しつつある。
悪くなる		-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・同業種・異業種の競合店の進出により、来客数は減少しているが、客単価は上昇基調にあり、景気回復感がある。また、宝飾品など高額品の売行きも良く、商品単価は上昇基調にあり、今後良くなる。
百貨店（営業企画担当）		・宝飾や時計、美術が堅実に推移している。主力となるヤング、キャリアの婦人服が回復しており、見通しは明るい。ただ、ミセス婦人服は苦戦しており、一般家庭の家計はまだまだ厳しい。しかし企画内容によっては大きく伸びる商品があり、客のニーズと企画が合っていれば伸長する。7月はセール中心となるが、価格と価値が見合った商品を提供すれば、節約疲れの客が購買に至ると見込まれる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・衣料や住居用品、食品を含め、今話題の商品、テレビ宣伝商品、あるいは機能性のある肌着、ちょっと美味しい有名デザート等の商品が上向き傾向にある。それに付随して単価も上昇しているため、今後は良くなる。
		コンビニ（販売促進担当）	・買物客の様子をみると、まず品物、消費期限、価格を確認し、その他カロリーをチェックする客が増えている。メタボリックシンドロームを気にする客が多く、包材から価格表示を抜き、カロリー表示するようすることで、購買につながるケースがある。今後も表示の工夫などにより、客の購買意欲は向上する。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・コンビニについては10月のたばこの値上げにより、駆け込み需要が見込める。9月の後半は瞬間的にはあるが、たばこの売上が増え、来客数も増えるため、売上増となる。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金制度が9月に終了予定であるため、駆け込み需要があり、やや良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新車販売において9月までは駆け込み需要があり、販売台数が当初計画より伸びる。
		住関連専門店（店長）	・来客数が増えており、客の購買意欲は増している。これまでしっかりと閉められた財布のひもが、少しずつ緩くなっている。しかし客単価は上がっておらず、良い物より安い物を買うという考え方は変わってない。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・夏場の嗜好飲料の需要が出てくることで、特にコーヒー業界ではアイスコーヒーの売上が伸びる。7月をピークに6～8月の中元シーズンに合わせ、ギフト物も多数動くため、売上も上がる。
		観光旅館組合（職員）	・夏休みや盆など客が動く時期になり、景気は若干回復する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・7～9月の期間は大型イベントや全国規模の大会などが入っており、人の動きが活発である。
		ゴルフ場（従業員）	・6月は自然災害や口蹄疫の影響で景気は悪かったが、7、8月は来客数の予約状況も良くなっており、先行きは明るい。また、参議院選挙が終了し、賞与の支給月となるので、入場者数の増加が見込まれる。
		音楽教室	・受注商品があり、売上が伸びる見込みがあり、今後は良くなる。
変わらない		商店街（代表者）	・客は物を買うことを非常に警戒している。もっと良い物が出て安くなるかもしれないという期待感と、質素節約を旨とする方向に動いている。無駄遣いはしないという行動に、変わりはない。
		商店街（代表者）	・良くなる要因がないため、今後も変わらない。
		商店街（代表者）	・特別の好転材料、悪くなる材料が見当たらないので、現在のまま景気は推移する。
		商店街（代表者）	・衣料部門や雑貨の1品単価が大変低い。商店街の飲食店においても来客数が減っているとの声が多く聞かれる。悪い状況がこのまま続く。
		商店街（代表者）	・客に職業を尋ねれば、フリーターと返事が返ってくるものが多く、職探しの人が多い。この状況下で景気は良くならない。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・2、3か月先の景気が良くなるような要素が特にない。
		百貨店（売場主任）	・ここ何か月間が同じ状況であるが、消費者のマインドを喚起するような事象が起きないため、今後も変わらない。
		百貨店（営業担当）	・口蹄疫問題が終息しない限りは、現状の非常に厳しい状態がこれからも続く。
		百貨店（営業担当）	・いつも堅調な食品であるが、精肉が伸びず、物産催事の人々の動きが鈍い。客の慎重な購買姿勢が継続しており、急激な回復は望めない。関心の高い文化催事や新規催事などの情報発信による来店促進の継続が必須である。
		百貨店（売場担当）	・来客数の動向が安定しており、今後も梅雨時期に天候が良くなると、7月は売上が上向き可能性がある。
		百貨店（営業企画担当）	・客の経済環境や購買意欲に大きな変化はみられない。客への密着戦略をこれまで以上に徹底するが、収益が減少するなか、見える変化を構築することが難しく、現状の推移に大きな変化はない。
		百貨店（業務担当）	・企業業績の回復が報道されているが、客の様子を見る限り、所得環境の改善にまでは至っていない。客はボーナス一括などでの高額品の買物を極力控えている。最近ではクレジットでの支払い等、支払を先延ばしする収入の見込み買いも減っており、厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画）	・前年の新型インフルエンザの影響がない分、来客数の減少はないが、売上が上がるまでには景気は回復していない。客は可処分所得減少の影響を小さくするため、有効配分を重視し、より慎重に必需品又は欲しい商品を比較購買する傾向がますます高まる。景気浮揚には、もう少し時間が掛かる。
		スーパー（経営者）	・南九州の口蹄疫等が少しずつ影響し始めており、全体的に商品が高値で推移している。今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・客の動向をみると、低価格の店を選んでいる傾向にある。低価格商品のニーズが高まり、利益幅が小さくなっている。買上点数を増やす戦略をとるか、客のニーズに応じて信頼できる店づくりをするかの二極化となっており、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・雇用情勢や先行き不安感が改善される兆しが全くみられず、それに伴う消費者の財布のひもは相変わらず固く、今後の景気回復は見込めない。
		スーパー（店長）	・夏季賞与の額の増減に左右される。現状より低迷する大きな要因も少ないが、政治の動向が景気にリアルに伝わる昨今、選挙結果に景気の動向は左右される。
		スーパー（総務担当）	・生活必需品以外への買い控え状況が今後も続く。
		スーパー（総務担当）	・今のデフレ基調は今年いっぱい続く。消費者の購買力も横ばい、もしくは若干下降気味に推移する。
		スーパー（企画担当）	・消費者物価指数は前年割れが続いており、消費動向も目立った回復は難しく、現状維持程度になる。
		スーパー（経理担当）	・今のレベルでの横ばい傾向が続く。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・ここ2、3か月は前年を下回っており、その幅も1割前後で推移し、2、3か月先もこの状況が続く。
		衣料品専門店（店員）	・客からは買物をしたい気持ちは大いにあるが、気楽に購入できる状況ではないという話を良く聞く。
		衣料品専門店（店員）	・8、9月の立ち上がり時期に前の季節の商品が残っていると、非常に厳しくなる。良い条件が何も無い中、どの商品を売っていくかということを考えなくてはいけないので非常に難しい販売状況である。
		家電量販店（店員）	・通常の店舗からアウトレット商品を扱う店舗に変更となり、売上は伸びたが、低価格商品ばかりが売れる状態が続いている。サッカーワールドカップも終わり、薄型テレビを中心とする高額商品の動きが鈍くなる。良い事象と悪い事象で相殺され、上がりもしないし下がりもしない状態が続く。
		家電量販店（店員）	・7月のボーナス商戦で地上デジタル放送対応テレビの需要はある。しかし消費者は予算が決まっており、その予算がテレビに回るのか、エアコンに回るのか、冷蔵庫に回るのかという状態になり、現状と変わらない。
		家電量販店（総務担当）	・ボーナス商戦はあまり期待できず、参議院選挙の結果にも左右される。
		乗用車販売店（販売担当）	・現在のエコカー補助金制度が9月で終了予定である。客の購買意欲は回復しているとは言えないため、3か月先の景気が良くなるとは言えない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格は下落傾向なので、需要は減少しない。しかし、地区にディスカウントのガソリンスタンドがオープンし、地区全体が低価格戦略を実施している。小規模店などの今後の運営体力が危惧される。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・子ども手当の効果はあまりなく、客のデフレ意識は依然として強い。今後も厳しい状況が続く。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気は少し持ち直しの傾向にあったが、ギリシャ財政危機の影響等により市況は混沌としており、今後も厳しい。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・中元商品の販売時期になったが、前年までは3,000円以上の商品をパンフレットに掲載していたが、今年は1,000円台からの商品を掲載している。売上はどうなるのか、先がみえない。
		高級レストラン（支配人）	・消費者は低価格の物に敏感に反応している。高額商品が売れず、厳しい状況が続く。
		スナック（経営者）	・客の様子から景気が上向く要素はなく、打開策も見当たらない。店を維持するのが大変難しい状況となっている。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・従業員や経費等の出費で店を辞めるわけにもいかない状況下、どうすればいいのか先がとても不安である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・いつもの選挙前同様、宴席予約が少なく、厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(副支配人)	・団体の予約は増えているが、7、8月のビジネスマンの動きは見通しが立たない。
		旅行代理店(従業員)	・夏休みの旅行については様子見の感があり、まだまだ勢いはない。その中で、海外リゾートの予約は順調である。
		旅行代理店(業務担当)	・6月までの3か月間は、低水準ながら予約数は計画に近い状態で推移している。最大の需要期である夏場の状況が良くないので、今後も景気は上向いていかない。
		タクシー運転手	・全体的に売上が悪い月がずっと続いている。客からも景気が良いという話が聞かれないことから、これからもあまり変わらない。
		タクシー運転手	・夏のボーナスはいくらか良いような報道がなされているが、欧州における財政危機の影響も心配され、良くも悪くもならない。
		タクシー運転手	・客の様子から、今の状態は2、3か月では変わらない。
		通信会社(管理担当)	・2、3か月で景気が良くなる要素が見当たらない。
		通信会社(総務担当)	・県内景気は、個人消費の弱さがやや和らいでいるというもの、一番大事な雇用状況は、有効求人倍率が1.0には程遠く休職者が多い状況である。このため、所得は増加せず、消費動向に活気はみられない。今後も企業収益の改善に向けた政策を打ち出さない限り、身の回りの景気は良くならない。
		通信会社(業務担当)	・7月は夏季キャンペーンが本格化し、ある程度市場の盛り上がり期待されるが、一部人気商品の買換え需要が中心であり、新規の販売動向は相変わらず厳しい。
		競輪場(職員)	・利用者の購買力が高まるような好況感がない。
		美容室(店長)	・ようやく町が市になり活気が出てきたと思われたが、口蹄疫の影響で夏祭り等が中止になり、景気も変化がない様子である。
		その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	・客である高齢者にとって、4月の診療報酬改定が負担増となっており、介護サービスの利用手控えにつながる懸念される。
		設計事務所(所長)	・現時点で受注が少なく、3か月後も景気は良くない。
		住宅販売会社(従業員)	・不況感を払しょくする材料がない。
やや悪くなる		商店街(代表者)	・例年、夏から秋にかけて食欲不振になる客が多く、簡単な食材で食事をする。そのため客単価が落ち、あまり売上が上がらない。今年も例年通りの傾向となり、低水準のまま推移し、悪くなる。
		一般小売店[鮮魚](店員)	・例年であれば売れない月に入る。天候や客の様子から今年は売れるかもしれないが、依然厳しい状況が続く。
		一般小売店[茶](販売・事務)	・夏場をどう乗切るのが毎年の課題ではあるが、現状の景気回復も期待できず、今年は例年以上に厳しくなる。
		スーパー(店長)	・いつものように参議院選挙の影響で来客数は減少するため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー(店長)	・ボーナスの時期となり、ギフトの動きに注目されるが、ボーナスの支給額が前年より低くなれば、ギフト需要は見込めず、今後も厳しくなる。
		コンビニ(エリア担当)	・客の財布のひもは更に固く閉まっており、今後も大幅な売上の回復は見込めない。
		衣料品専門店(総務担当)	・秋冬物の受注状況が前年に比べて非常に悪く、厳しい状況が続く。
		住関連専門店(経営者)	・大型店、輸入チェーン店の低価格商品に対し、安全・安心の国産家具を中心に取り扱っているが、景気が良ならず、この先の経営が厳しい状況にまでなっている。
		高級レストラン(経営者)	・7月は月初めに企業による株主総会後の食事の予約が少しずつ入っているが、それ以降は動きがなくなっている。団塊世代の退職や高齢化社会等を考えて、仏事に力を入れて集客を考え、ホームページで告示をしているが、反応が鈍い。
		観光ホテル(総務担当)	・夏季はホテルにとって最も売上が落ちる時期だが、現時点での2、3か月先の予約状況は、ここ数年のなかでも悪い。
		タクシー運転手	・だんだん暑くなると昼の人の動きが悪く、夜だけ少しタクシーが動く状態となる。夏休みも県外の人が増えないため、厳しい。
		通信会社(営業担当)	・口蹄疫の影響で県内全体が暗い雰囲気、景気は良くならない。
		テーマパーク(職員)	・年間を通して稼働率の高い夏休みを迎えるが、当社及び県内全体への観光客の動きが鈍くなる懸念される。国内全体の動きが期待薄のため、韓国などへのPR等仕掛けを行っているが、全体として下方予想である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（支配人）	・これからの季節は早朝や薄暮の涼しい時間帯にプレーが流れ、食事を伴った正規プレーの数が減っていく。
		理容室（経営者）	・転勤等の動きがあり、来客数の減少が予想され、良くなる見通しが無い。
		住宅販売会社（従業員）	・不動産業の土地仲介は、土地の需要と供給も少ないが、売る方は高く売りたい、買う方は安く買いたいという不均衡な状況になっており、将来的にも土地の売買で景気が上がることは見込めない。
		その他サービスの動向を把握できる者 〔フィットネスクラブ〕（営業）	・公共事業に依存した地域では、県や市の財政が厳しく各方面の仕事が減り、景気回復を見込める要素が少ない。
	悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・参議院選挙の消費税増税の話題から、消費の閉塞感につながっており、消費動向は厳しい状況となる。
		百貨店（営業担当）	・選挙前は物が動かない傾向にあることに加えて、将来、政局がどう変わっていくのか、生活者は非常に不安に思っており、厳しさが増している。参議院選挙の結果で将来のビジョンがはっきりしないと、消費そのものは活性化しない。
		衣料品専門店（店長）	・来客数、販売量に変化がみられないが、売上の前年比をみると今後も厳しい状況が続く。
	高級レストラン（専務）	・相変わらず政治が不安定で、有効な景気対策がない。消費者の動きが鈍く、お金も出ない状況が続いている。	
	競馬場（職員）	・一般市民は景気回復へ兆しを感じる事が出来ず、今後も景気回復は難しい。	
企業動向関連	良くなる やや良くなる	農林水産業（経営者）	・5、6月は口蹄疫問題でかなり苦戦したが、来月7月には解消されそうだというニュース等が報道されており、梅雨明けの来月は大いに期待される。居酒屋、スーパー関連も夏の需要期に入り、各方面のメーカーからも原料、鶏のむね肉の引き合いが少しずつ出始めている。また口蹄疫問題により豚肉が不足しており、価格の高騰もあり得ることから、大いに期待される。
		食料品製造業（経営者）	・商品が動き出す見込みがあり、今後はやや良くなる。
		家具製造業（従業員）	・今後、民間の商業施設投資が増えており、具体的な情報も前年より2割程度増えている。
		鉄鋼業（経営者）	・新規建築物件がほとんど見受けられず、新規引き合い、成約がほとんどない状態が続いている。現在の状態はこれまでに経験がなほどに深刻であり、需要の減退が危惧される。スクラップ価格も下落しており、製品市況が弱含みに転じている。需要家が買い控えをしていることも一因だが、需要そのものの落ち込みが懸念される。建材関連業界では与信問題が改めて浮上しそうである。しかし今が底であるため、これから少しずつではあるが良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連並びにLED関連製品の状況が非常に安定しており、今後もこの安定した状況が続く。全般的な動きとして非常に活発な動きとなっており、安定した状態が継続する。
		建設業（社員）	・官公庁の発注は上半期80%を目標にしており、3か月後までは週に5～6件発注される状況が続く。どの業者も年度末までの仕事量の確保に必死となっている。
		金融業（調査担当）	・福岡市周辺のオフィス等不動産の動きが出ており、良くなる。
	変わらない	農林水産業（営業）	・現在が不需要期ということもあり、2、3か月後の需要期はある程度回復する見込みがあるが、相場や生産、小売との需給状況の乖離もあり、一概に良いということは難しい。横ばいまたは現在と変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・口蹄疫の影響はかなり大きく、人の動きが著しく減少している。まだ終息したわけではないので、今後も売上の減少傾向は継続する。
		繊維工業（営業担当）	・良くなる要素が何もなく、今後も厳しい状況が続く。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今の焼き物業界では売れ筋がなかなか出来ず、ギフトも価格の面で苦労している。単品単価においては安い物か、高い物かの二極化となっており、中間層の動きが悪い。消費者の動向は製造業に即、響いてくるため、消費動向が鈍い現状が続くと倒産することも懸念される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いや客の話から2、3か月先、特に景気が良くなるとは感じられない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量は大きな変動がない。受注量は過去に比べて確かに良くなっているが、コスト面、発注期間の短縮、発注契約の延期等により、現場は大変難しい舵取りが必要になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・3か月先の受注状況は当初予算台数とほぼ同じであり、変わらない。	
		建設業（従業員）	・見積案件は多数あるが、全体的に小規模な物件が多くを占めている。銀行の融資も審査が厳しく、設備投資する企業や個人も少ない。	
		輸送業（従業員）	・良くなる要素がなく、悪いまま推移する。	
		輸送業（総務担当）	・荷動きの状態があまり良くない。すぐに変化があるとは思えないので、今の状態がしばらく続く。	
		通信業（職員）	・情報通信部門は受注量を確保しており、堅調に推移しているが、当社のメインとなる建設業は厳しい状況が続いており、全社的には苦戦している。	
		金融業（営業）	・新興国の需要は長期間継続すると考えるが、国内需要については、家電製品等のエコポイント期限後の消費動向は不透明である。製造業は、設備投資に踏み切っていない。この状況で、下請企業の選別は必至であり、技術力に乏しい企業は厳しい。需要の回復を前提とすれば、勝ち組、負け組の差が顕著となる。土木や建設業は公共工事の減少から長期不況の状況である。東九州自動車道の着工により、少し活気はあるが、収益面では厳しい。	
		金融業（得意先担当）	・取引先の中小零細企業の経営者は、景気回復の実感はまだないという厳しい状況にある。3か月先も上向いていく状況ではない。	
		金融業（営業担当）	・参議院選挙の結果によるが、中小企業に漂う閉塞感は選挙の結果でも好転する雰囲気はない。先を見据えた投資の話が出てこない。	
		不動産業（従業員）	・集合住宅の売行きの不調が今後も続く。	
		広告代理店（従業員）	・6月の受注枚数は前年比99.0%と少しの減少となった。折込枚数はほぼ横ばい状態が続いており、子ども手当の支給により、消費意欲が増すと思われたが、今のところ目立った反応はない。しばらく横ばい状態が続く。	
		経営コンサルタント	・不安定な情勢が続いており、新しい動きが起こりにくい。当分は今の混迷した状態が続く。	
		経営コンサルタント	・選挙があると売上にかなり響き、状況が厳しくなるという話をよく聞くが、今回の参議院選挙はそこまで影響が出てない。7月は若干落ちる可能性があるが、春先からの流れをみると、それでもなんとか乗り切って選挙後は少し良くなる。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先の多くは投資に対して慎重姿勢を崩しておらず、本格的な景気回復はまだ先である。	
		やや悪くなる		一般機械器具製造業（経営者）
広告代理店（従業員）	・上半期の見込みにおいて、売上は前年割れとしている。			
その他サービス業〔物販リース〕（従業員）	・景気回復の兆しのなかではあるが、設備投資への意欲回復までには相当の時間を要する。			
悪くなる		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・国の補助金がカットされ、市町村が将来の計画や調査に予算を計上しなくなっている。業務を請け負う業者の受注が更に減少することが予想される。倒産の業者も出ていることから、今後も厳しい状況が続く。	
雇用関連	良くなる	-	-	
		やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・物の動きは活性化しつつあり、それに伴い、企業の採用意欲も高まる。
			求人情報誌製作会社（編集者）	・来年3月に計画されている九州新幹線全線開業に向け、駅ビル等の求人が活発に動き始める。
			新聞社〔求人広告〕（担当者）	・メーカーの生産水準が回復基調にあるため、やや良くなる。
			職業安定所（職員）	・雇用情勢は依然として厳しい状況にあるが、新規求人数が増加傾向にあることや常用求人者数が伸びていることから、一部不安要素はあるものの、緩やかながらも回復する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		職業安定所（職員）	・産業別の新規求人数をみると、前年比で増加する業種が増えている。また、減少した業種も減少幅が縮小している。今後、求人数が増加する感触がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・今までの採用抑制の反動が少しずつ出始めている。
		人材派遣会社（社員）	・消費者の購買意欲が高まらず、政治不信の影響もあり、お金の動きはあまり感じられない。製造業を中心に人手を増やすまでは、見込めないという企業が多い。
		人材派遣会社（社員）	・雇用マインドはこのまま推移する。ただ、来年度も就職の決まらない学生が多くなる見込みのため、大量の若年者未就職者が累積していくことは問題である。
		新聞社〔求人広告〕	・製造業を始めとした基幹産業の求人が、依然として少ない。
		職業安定所（所長）	・月間有効求人倍率は平成19年9月から32か月連続して前年同月を下回って推移しているが、平成22年5月に低水準であるものの、前年同月を33か月ぶりに上回っている。また、新規求人数で前年を6.1%上回っているものの、リーマンショック以前の新規求人数と比較すると下げ止まって推移している状況である。
		職業安定所（職員）	・少しずつ回復傾向であったが、5月は後退しており、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・新規求人数及び企業からの聴取等から製造業に改善の兆しはあるものの、全体としては、未だ厳しい状況であり、先行きは依然、不透明である。
		民間職業紹介機関（社員）	・取引企業の生産は大きく増加しているわけではなく、人手そのものがすぐ必要という状況に至っていない。社内でも過剰人員を抱えているケースがある。
		民間職業紹介機関（支店長）	・派遣需要は少しずつ回復するが、改正労働者派遣法が成立するであろう今年後半には、再びマイナス影響が出ることが懸念される。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・夏採用や秋採用に関する話を人事担当者から聞かれない。内定辞退への対応を考えている人事担当者もいるが、辞退された採用枠を積極的に埋めに行く動きはあまりみられない。調整弁的に優秀な学生がいれば会っても良い、という程度の動きに止まっている。
		やや悪くなる	人材派遣会社（社員）
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・規制強化により、派遣社員の利用継続が困難になる企業が増える。正社員を雇用する体力がある企業は限られているので、行き場のない派遣社員の失業が増える。	

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・7月末からインターハイが沖縄で開催され、出場選手や応援者のレンタカー予約がかなり入っている。特にワゴン系の車種は沖縄の全レンタカー会社が既に満車となっている。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・3月、4月の消費回復傾向は、雨量の多かった5月中旬以降の梅雨時期に鈍ってしまったが、梅雨明け以降に店頭での動向も活発になってきている。このまま緩やかな回復基調が継続することに期待する。
		コンビニ（経営者）	・冷やし麺の売上が伸びる他、近隣で夏祭りがあるため、良くなる。また、銀行のATMが設置されるので、来客数が増える。
		コンビニ（経営者）	・来客数は前年をクリアできている。さらに、インターハイが来客数増加につながり、買上単価の減少をカバーできるものと見込む。
		コンビニ（エリア担当）	・観光客の戻りが期待できる。客単価は変わらず低調だが、来客数に伸張が見られ、少なからず好調になりつつあると判断する。
		衣料品専門店（経営者）	・前々月、前月と良くなってきているのでこの調子で良くなる。
		家電量販店（総務担当）	・3Dテレビの販売が軌道に乗れば、単価が持ち直す。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・沖縄県のインターハイと夏祭りのイベントに積極的に関わって売上の前年増を目指す。
		観光型ホテル（総支配人）	・夏の繁忙期の予約は順調である。ただし、インターハイ等の一過性の大型イベントによるものでもあり、楽観はできない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル(マーケティング担当)	・予約の間際化の傾向が強いこともあり、先行きが見えにくい状況ではあるが、沖縄のトップシーズンである7~9月の予約受注状況を見ても、今月よりは回復している。このままのペースを維持できれば、何とか今月よりはやや良くなる。
	変わらない	コンビニ(エリア担当)	・客単価の回復が無い限り、個人消費が高まったとは言えない。客は欲しいものを安く買う傾向が高まり、今後も低価格路線は続く。
		衣料品専門店(経営者)	・購買意欲はあると見受けられるが、買い控えする客が多く見られる。これから先々のことを考えてのことだと推測される。
		通信会社(店長)	・夏の新品が出そろってきたが初動のみであり、市場を明るくするようなヒット商品も出てこないため販売数のアップは期待できない。沖縄自体が基地問題を始め景気回復につながるような明るい話題が無く、今後も停滞状態が続くおそれがある。
		観光名所(職員)	・7月から8月にかけてインターハイが開催される。この時期は、沖縄への入域観光客数がピークを迎える時期と重なる。観光業界にとっては、県内での消費動向が気になるところであるが、インターハイの参加者層を考えると、景気の回復は厳しい。
		ゴルフ場(経営者)	・低単価による集客状況は変わらない。一度コースの値段が下がると練習場にも値下げ圧力がかかり、デフレスパイラルとなっている。最低でも2、3年はこういった芳しくない状況が続く。
	やや悪くなる	その他専門店[書籍](店長)	・来客数の減少傾向はこの先も当分の間は変わらない。さらに減少傾向は強まる。
	悪くなる	商店街(代表者)	・ここ近年の景気の低迷により、客が来ても販売量、及び1人当たりの消費単価が落ちているような状況である。観光客もまた多少盛り返してきているようだが、販売量は落ちている。単価も大変厳しく、売上増にはなっていない。
		その他飲食[居酒屋](経営者)	・飲食業は生き残りをかけたサバイバル状態で、スタッフへの負担も大きくなっている。顧客の大部分を占める中小企業の早急な景気回復が望まれる。
	企業動向関連	良くなる	-
やや良くなる		食料品製造業(管理部門)	・受注量が増える見込みである。
		輸送業(営業担当)	・全国的な景気回復の兆しもあることで、国内外の観光客も順調に回復、又は増加している。子ども手当や沖縄での高速道路無料化による経済効果も期待できる。
		通信業(営業担当)	・受注案件の話が以前より聞かれるようになった。
変わらない		窯業・土石製品製造業(経営者)	・個人住宅及び共同住宅建築を中心に、横ばいの見通しである。
		建設業(経営者)	・モデルハウス及び完成見学会への来場組数が横ばい状態である。リフォームの問い合わせ件数が減少している。
		輸送業(代表者)	・宮古・八重山・久米島の全地区とも季節要因を除いては、堅調に推移する。
		広告代理店(営業担当)	・まだまだ県民の消費支出が高まる傾向にないことから、民間企業の販促投資も弱気な傾向にある。今後は、国、県が取組む雇用政策や産業振興政策などの効果が見えるようになるかと多少は上昇傾向に変化するのでは、と期待している。
		会計事務所(所長)	・世界的にも日本的にも景気回復の報道は多い。しかし、取引先とやり取りをすると、実際の経済行動が反映されているのか不明に感じる。
やや悪くなる		-	-
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	学校[専門学校](就職担当)	・県内の求人数は減少傾向にあるものの、県外からの求人は少しずつではあるが、上向きに転じている。今後の中途採用求人に対して期待が持てる。
	変わらない	人材派遣会社(経営者)	・現在は依頼がしっかり増えているが、審議がストップしている労働者派遣法改正がどのようになるかで、まだ見えないところがある。また契約終了も同時に出てくるので、それを上回る夏の依頼が取れるか、はっきりしない。
		求人情報誌製作会社(総務担当)	・求人件数が前年より増加傾向ではあるが、今後も引き続き増えるかは不透明である。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	・前年よりはかなり回復しているが、求人を控える企業もまだまだ増えてきており、今後は大きくは変わらない。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-